

明治大学  
農学部

大学院農学研究科

School of Agriculture



食料・環境・生命

MEIJI  
UNIVERSITY 2027

# 研

## 「未開拓の領域に挑む面白さと奥深さ」

### 微生物の機能を引き出し、新たな食品づくりに挑む

高校生の頃から生物学、特に遺伝学や微生物学に強く惹かれていたこともあり、現在はゲノム微生物学研究室で研究に取り組んでいます。

テーマは「アルギニン応答性転写因子ArgRの機能解明」です。

転写因子ArgRは、アミノ酸代謝の調節機構として働く一方、アミノ酸代謝とは異なる遺伝子にも作用している可能性があり、解明されていない領域があります。

高校や大学の座学とは異なり、研究では未開拓の領域に挑むことの面白さと奥深さを実感しています。

将来は食品企業で健康と美味しさを最大限に引き出した食品を開発したいです。微生物の代謝プロセスを最適化することで、より旨味を凝縮した調味料など、栄養価と風味に優れた新たな食品づくりに貢献したいと考えています。

農芸化学科3年

椎名 にこさん 東京都立城東高等学校卒業

# 探求によって得られる、真の学び

# 1

## 「食料」「環境」「生命」を切り口とした学び

自然と人間社会の調和を図り、生命を理解し、地球的な食料・環境問題の解決に貢献できる基礎力と応用・発展性を身につけます。

# 2

## 全学科共通の農場実習による現場での体験

農学のベースとなる「生産現場」で農学すべての基礎となる「いのちを育む」意識を現場で身をもって体験します。

# 3

## 多数の実験・実習を通して触れる最先端技術

1年次から設置された実験・実習科目を通じて、最先端技術に触れながら自身の興味や進路を明確にしていきます。

# 4

## 研究内容を通じた課題解決への挑戦

日常生活を豊かにする研究から社会課題解決につながる研究まで、幅広い領域で社会に貢献することを目指しています。

# 5

## 全国有数の教育研究施設を備えた環境

最先端の研究に要求される高度な研究機器類を整備し、研究体制の充実を図っています。

## CONTENTS

学部コンセプト	01	農学部のカリキュラムと4年間の流れ	11	研究施設・設備	41
農学部の概要	03	学科紹介		明治大学黒川農場	43
農学部の特色		■農学科	13	国際交流(留学制度)	45
①将来進むべき道を選択する際の 大きなきっかけとなる実験・実習授業	05	■農芸化学科	19	大学院 農学研究科	47
②文系でも少人数教育や実習を重視する ー食料環境政策学科のプログラムー	07	■生命科学科	25	サポート体制	50
③教養から実習、外国語まで幅広く学ぶ	09	■食料環境政策学科	31	就職支援・資格取得	51
		総合教育科目	37	入試情報	52
		生田キャンパス	40		

※登場する学生の在籍年次や卒業生の肩書等は2025年度のもので、2025年以前撮影の写真も掲載しています。

# 食料・環境・生命をキーワードに 社会に貢献できる人材を育成する学部

## 明治大学農学部の歩み

明治大学農学部は、1946年に前身の明治農業専門学校が設立されて以来、時代と社会の要請に応じて改組・拡充を進めてきました。1949年新制大学発足時に農学科と農業経済学科の2学科を設置し、1953年には農産製造学科(1968年農芸化学科に改称)を増設。さらに2000年、生命科学科を新設して現行の4学科体制となり、2008年、農業経済学科を食料環境政策学科へと改称しました。

農学部では食料・環境・生命をキーワードに、自然と人間社会の調和を図り、生命を理解し、地球的な食料・環境問題の解決に貢献できる基礎力と

応用・発展性のある人材の育成を目的とした教育と研究を行っています。また、自然科学系教員と社会・人文科学系教員の協力のもと、文理融合型の教養教育と専門教育を実施する体制を整えているのも本学部の特長です。4つの学科は独自性を保ちながら有機的関連を持ってカリキュラムを編成しており、専門分野のみでなく、様々な分野を学部内で学ぶことができます。

生田キャンパス内の最先端の研究機器と実験農場、2012年4月にオープンした川崎市黒川地区の明治大学黒川農場など、実験・実習を行う施設も充実しています。

## 農学部の3つのキーワード



# 明治大学農学部の強み

## 4つの特色で「全人教育」を推進

**Point 1** 現場を通じて理解を深める  
多数の実験・実習

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように専門科目と総合教育科目を並列し、多数の実験・実習を設置。基礎をしっかりと学んだ後に段階的に専門性を高められるように科目を配置しています。

▶詳細はP05

**Point 2** 大学付属の黒川農場で行う  
全学科共通の農場実習

「実地を重視し、実地を通じて理解を深め、研究を進める」という農学の基本的性格を具体的に展開・経験できるように、全学科共通の科目として1年次に明治大学黒川農場における農場実習が設置されています。

▶詳細はP09

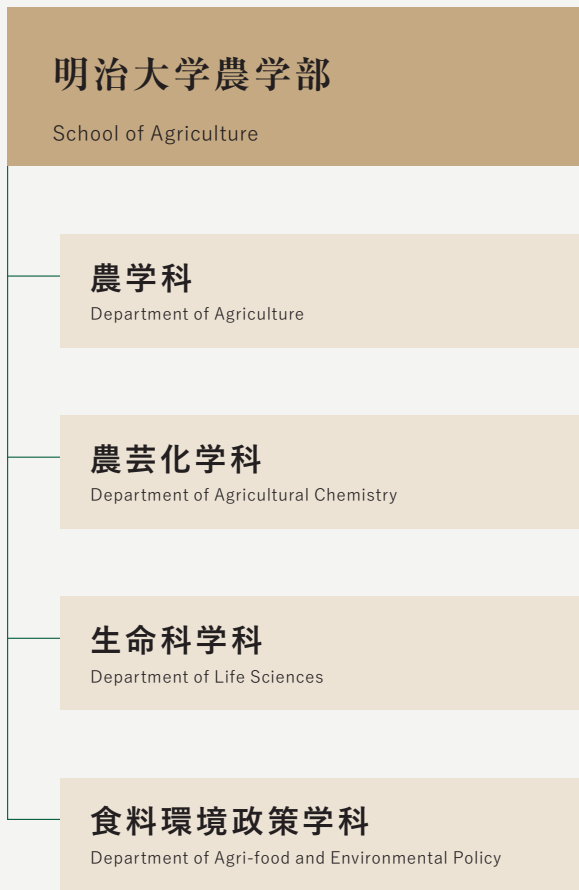
**Point 3** 3年次から始まる卒論関係科目  
文献調査・特別研究

3年次からは、専門とする研究分野に関係の深い科目を中心に、文献調査や特別研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動が増えてくるため、学生の学びへの主体性・積極性が重視されます。

**Point 4** 最新鋭の研究施設と設備  
高度な先端研究

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の革新を常に踏まえ、最先端の農学研究に要求される高度な研究機器類や施設を多数設置し、研究体制の充実を図っています。

▶詳細はP40



**大学院 農学研究科の歩み**

農学研究科は、1959年の農産製造学専攻の設置とともに生田キャンパスに発足しました。1978年の機構改革に伴って、農産製造学専攻を農芸化学専攻に改称し、新たに農学専攻・農業経済学専攻を設置しました。さらに2003年に生命科学専攻の設置により現在の4専攻制となりました。各専攻には、博士前期課程・博士後期課程が設置され、研究活動に邁進しています(詳しい情報は「明治大学 大学院ガイドブック」をご覧ください)。

# 将来進むべき道を選択する際の 大きなきっかけともなる実験・実習授業

## 生命科学科 生命科学実験

座学だけではなく実習を通して理解を深めることを目的とした実験科目も、農学部のカリキュラムで重要な位置を占めています。様々な実験操作を体感しその原理を深く学ぶことで、自身の興味を見定めるとともに視野を広げることができます。

## 専門的な研究に必要となる様々な実験を通して、 自分の興味や行いたい研究を見きわめる

農学部の1・2年次のカリキュラムには、実体験を通して深く学ぶことのできる「実験・実習科目」が多く設置されています。生命科学科では1・2年生を対象とした「生命科学実験I～IV」があり、I～IVの各科目それぞれにテーマが設けられています。各科目では、複数の教員が異なる実験内容を担当し様々な実習を学びます。

最初の導入科目である生命科学実験Iでは、動物・植物・微生物のそれぞれの分野を専門とする教員が担当し、観察を主体とした実験を行います。教科書どおりには進まない実験を自身の手で体感しながら、実験操作の技術や結果をレポートとしてまとめて整理し、人に伝える力を養います。また、生きた動物を使った実験もあるため、研究の過程で失われる動物の命について考えるきっかけとする狙いもあります。続く生命科学実験II・III・IVでは、それぞれ「化学分析」「タンパク質」「動物実験」がテーマとして

設定されています。基礎的な実験手法や原理だけでなく、より複雑な実験操作や理論を体感し理解することで、生命科学研究における実験操作に必要な技術や周辺知識を習得します。

これら生命科学実験で学ぶ知識や技術は、いずれも3年次以降の各研究室での専門的な研究に必要不可欠となる内容です。様々な実験を通して、主体的に実験に取り組むとともに他者と相談し協力して実験を進める力や、実験のプロセスやその結果をみずから考察する力を養うとともに、内容を整理しプレゼンテーションする能力も培われます。そうした幅広い実験・実習の学びを経て、自分の興味や行いたい研究がより明確になっていくはずです。

### MESSAGE



### 紀藤 圭治 教授

生命の興味深い点の一つに、多様性と共通性があります。様々な形態や大きさ・生育環境・繁殖様式の生物種が生存している一方で、生命は共通の遺伝暗号の仕組みで成り立っています。なぜ病気になるのか、なぜ老いるのか、どうして決まった時期に花が咲くのかなど、日常生活のなかでも生物の基本的な仕組みに対する疑問はつきません。生命科学科ではそうした様々な興味の対象や疑問に対して分子レベルや遺伝子レベルで理解することを目指し、基礎から応用まで幅広い研究が行われています。生命に対する自分自身の疑問や好奇心を抱き知識を深めるとともに、生命の多様性や生命科学の社会とのつながりにも目を向けた視野の広い学びを期待しています。

### PROFILE

東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。製薬会社、金沢大学、東京大学に勤務後に、2009年明治大学に着任。出芽酵母をモデル生物として用いたプロテオーム研究に従事。



生命科学実験Ⅳの様子の一部です。教員や大学院生からの説明を受けながら、動物の組織切片の作製と染色を行い、実際に顕微鏡下で観察することで、座学で学習した組織学の知識を生々の情報として理解を深めます。細胞や組織の機能と関連した形態学的な特徴や配列の仕方に着眼し、スケッチを行うことで観察眼を養うことを目的としています。

## STUDENT VOICE



生命科学科2年  
香川 湖春さん

福岡県立筑紫丘高等学校卒業

### 実践を通して学ぶ、 生命科学の基礎と知識

生命科学科では1～2年次を通して生命科学実験があります。この実験授業の魅力は、今後の研究室活動に必要な基礎知識と技術を実践的に身につけられる点です。学ぶ内容も動物・植物・微生物と幅広く、それぞれの分野を研究している教授のもとで数回に分けて実験を行います。自分が特に興味を持っている分野以外についても学ぶため、新たな発見や楽しさがあり、2年次秋学期に研究室を選ぶ際の参考にもなっています。最初は分から

ないことばかりでしたが、大学院生を始めとする先輩方が丁寧にサポートしてくださるおかげで、徐々に実験器具の扱いや実験での考え方を習得することができました。得た結果を考察し、レポートにまとめる経験も深い学びにつながっていると思います。

#### 注目授業

#### 農学科 農学基礎実験



農学科 糸山 亨 教授

農学基礎実験で学ぶのは、農学科で行う幅広い分野の科学実験の基礎。試薬を用いた化学実験、電気泳動などの分子生物学実験、無菌操作、標本のスケッチ、野外での個体群の調査など、自らの目で見て、手を動かして取り組む実験の楽しさを感じながら、大学での学習・研究に主体性を持って臨む姿勢を身につけます。また、レポートの作成方法やデータの統計処理など、理系の学習に必須となる知識も学びます。多様な分野の研究に触れることで、自分の興味や進むべき方向性について考えることができるため、今後の専門性の高い実験科目や卒業論文につなげてほしいと思います。

#### 注目授業

#### 農芸化学科 食品化学・食品分析実験



農芸化学科 石丸 喜朗 教授

「味覚の個人差の原因を探る」というテーマで実施しています。まず、苦味以外の四基本味溶液を用いた識別試験を行います。PTC溶液に関しては、口に含んでどのような味を感じるかを実際に体験します。次に、各自の口腔内組織を採取し、ゲノムDNAを抽出した後、PTCに対する苦味受容体T2R38をコードするTAS2R38遺伝子の塩基配列の一部をPCR増幅します。高感受性型(PAV型)と低感受性型(AVI型)の対立遺伝子で異なる切断パターンを示す制限酵素Fok IでPCR産物を酵素処理した後、アガロース電気泳動を行って遺伝子型を決定します。実験の実施に必要な倫理審査についても学びます。

# 文系でも少人数教育や実習を重視する — 食料環境政策学科のプログラム —

## 少人数ゼミと 多彩な実習科目

農学部には文系学科として食料環境政策学科が設置されていますが、ここでも学科独自のファームステイ実習や、他学科同様の農場実習など、現場での実習を重視しています。また、少人数制のゼミが充実しているのも食料環境政策学科の特長です。

## 少人数ゼミに加えて、農場実習、 ファームステイ実習など多彩な実習科目を用意

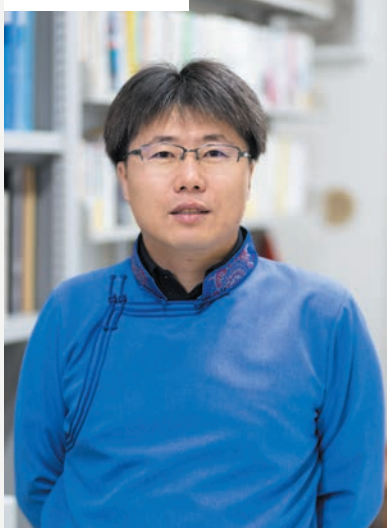
食料環境政策学科では、まず1年次春学期に、大学で学ぶうえでの基礎の基礎、いわば学問リテラシーを身につけることを目的とした「基礎ゼミ」を実施します。続いて2年次秋学期には、各教員の専門とする分野で、課題を発見・考察し、解決策を探るために何をすべきかについて、能動的に学ぶ「プロジェクトゼミ」があります。緊密な指導と学生の積極的な参加が特長で、3年次からのゼミ活動に備えるものとして位置づけています。

そして3・4年次には「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に参加します（研究室に所属）。活発なディスカッションの場を設けるとともに、3年次からは研究室単位でフィールドワーク実習等を行い、4年次には教員の指導を受けながら、大学における学習の集大成としての卒業論文の完成を目指します。一方、実習科目としては、1年次に黒川農場での農場実習1、2年次にはファームステイ実習を実施します。国内の10カ所程度の実習地の中から1カ所を選び、農家の方々と起居寝食を1週間ともにするファームステイ実習は、経

営・家計・生活を総合的に把握するのに役立つだけでなく、農村生活の実情に触れ、経験を豊かにしてくれます。希望者は、さらに海外での実習「海外農業体験」（主にモンゴル国における実習）にも参加可能です。

3年次に入ると、研究室ごとに「フィールドワーク実習」として、実際に地域に赴いて調査を行います。この実習は、調査方法を学び、対象地域の実情を知るとともに、データを収集し分析する能力や問題解決に必要な応用力を身につけることを目的としています。さらにレポートにまとめることを通して、表現能力の向上を図ります。積極的な学生は、加えて「キャリア探求実習」にも参加しています。キャリア探求実習は、学生の自主的な実習を単位化するものであり、いくつかの実習先については大学側からの斡旋も行っています。

## MESSAGE



### 暁 剛 専任講師

ファームステイ実習は、農業現場の第一人者から直接学べる貴重な科目です。この実習は学生にとってかけがえのない経験になると同時に、大学での学習、就職活動、長期的な人生に大きな影響を与えています。海外農業体験は、実際に海外で農作業を体験し、現地の農家や農業企業と交流することを通じて、海外の農業や社会、経済に関する理解を深めることを目的とする実習科目です。この科目は、事前学習、1週間の海外現地実習、現地実習後のレポートから構成されています。コロナ禍で一時中断していましたが、2024年度からはモンゴル国において実習を行い、遊牧生活体験、JICA事務所や大学への訪問、市場見学や工場見学などを通じて、学びを深めています。

### PROFILE

2010年明治大学農学部農業経済学科卒業、2012年明治大学大学院農学研究科農業経済学専攻博士前期課程修了、2015年同博士後期課程修了。専門分野は農業経済学。



ファームステイ実習は田植え作業、果樹収穫、野菜出荷から、畜産まで、豊富な内容が用意されています。モンゴル国では、放牧や乗馬などを体験します。

## STUDENT VOICE



食料環境政策学科2年  
迫田 瑠香さん

東京都私立品川女子学院高等部卒業

## 個人の学びを学内外で深められる 食料環境政策学科

食料環境政策学科の最大の魅力は少人数教育体制下での学びと実習による豊富な現場体験の機会があることです。3・4年次の「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に備え、1年次に「基礎ゼミ」、2年次「プロジェクトゼミ」と4年間を通してゼミ活動に専念できます。私が所属するプロジェクトゼミでも学生同士で積極的な議論を交わし、教員と隔たりなくコミュニケーションがとれる少人数教育ならではの環境が整っています。実習科目は多くの学生が履修する農

場実習やファームステイ実習、希望者による海外農業体験等があります。これらの実習では多地域農業への理解を深めると同時に講義で修得した見地から多くの気づきを得られることを実感します。私は海外農業体験も参加しましたが、その経験で培った異文化への尊重と尊厳の気持ちは一生の宝になると思っています。

### 注目授業

### プロジェクトゼミ



食料環境政策学科 佐々木 宏樹 准教授

食料環境政策学科では、1年次から4年次まで、段階的にゼミを履修できます。1年次は基礎ゼミ、2年次はプロジェクトゼミ(プロゼミ)、3・4年次はリサーチゼミと、いずれも少人数で主体的に学ぶ場です。なかでもプロゼミでは、学生が中心となって具体的な「プロジェクト」に取り組みます。私の担当するプロゼミでは、持続可能な地球環境と人々の健康を両立させる“プラネタリーヘルスダイエット”などをテーマに、文献の輪読を通して基礎知識を身につけた後、学生自らがアンケート調査やサーベイ実験(アンケート形式で参加者に異なる情報や選択肢を提示し、回答の違いから行動や意識の変化を分析する実験手法)を企画します。自分で課題を発見し、リサーチクエスチョンを立て、オリジナルデータを収集・分析することで、「自ら考え、調査する力」の基礎を養います。



# 教養から実習、外国語まで幅広く学ぶ

## 黒川農場 農場実習

農学部では、9割以上の学生が1年次に「農場実習」を体験します。自らの手で作物を育てる中で、学生たちは生命を育むことの楽しさ、難しさに気づき、農学を学ぶ本当の意味を知ることになります。

## 生産現場を知ることが農学を学ぶスタート地点となる

農学部全学科共通の科目として1年次を対象に開講されているのが、黒川農場で行われる「農場実習」です。入学して間もない学生たちに、教科書や文献だけでは絶対に知ることのできない、農学のベースとなる「生産現場」を知ってもらうために設置されているのが、この授業です。

実習は教員だけでなく、農場職員、現場経験を持つ嘱託スタッフたちの協力のもと行われるため、農作業に不慣れな学生たちでも安心です。最初

は泥だらけになることに抵抗を感じていた学生も、すぐに作業に夢中になり、徐々に農業のおもしろさに引き込まれていきます。選んだ学科によって環境、食料、生命と専門分野の違いはあるものの、農学すべての基礎となるのは「いのちを育む」という意識です。それを現場で身をもって体験することで、農学を学ぶ目的や意味がおのずと理解できるようになっていきます。

### MESSAGE



### 岩崎 泰永 教授

農場実習では、播種、定植、栽培管理、収穫などの基本的な作業に取り組みます。実体験を通して基礎的な技術を修得することももちろん大切ですが、作物の栽培方法や利用方法を自分で調べ、考えることを重視しています。季節ごとに変化する圃場や作物と向き合いながら、農業の楽しさと難しさの両方を知り、植物を「作物」として捉える視点を養ってほしいと考えています。また、知識や技術を身につけるだけでなく、仲間と過ごす時間のなかで農業の楽しさを知ること貴重な学びです。雨が降ったり、暑かったり、寒かったり、大変な時もありますが、みんなで協力して収穫した野菜を調理して味わうおいしさは、きっと格別だと感じることでしょ。さらに、2026年度からは1年次の「農場実習」に続く発展編として2年次以上の学生を対象に「農場実習II」を開講します。卒業後に農業や食料生産に関わる人材の育成を目指し、実習を通して農業の基本技術について学ぶことを目的としています。実際の農業生産を理解するために必要な知識や技術を習得してもらいたいと考えています。

#### PROFILE

1988年東北大学大学院農学研究科修士課程修了。2000年博士(農学)学位取得。民間企業、国公立農業研究機関などを経て、2021年より現職。専門は植物栄養学、農業工学。

### STUDENT VOICE



### 農学科1年 福原 隆吾さん

東京都私立杉並学院高等学校卒業

## 農場実習での実践的な学びから 視野が広がる

農学部の学生の多くは1年次に「農場実習」を履修しています。実習では、作物の播種から収穫、さらに加工まで農業の一連の流れを体験することができます。私のクラスでは、サツマイモの植え付けや落花生・ブルーベリーの収穫など栽培に関する活動を行いました。シイタケの種駒打ち込みや植物工場での養液栽培など、普段の生活では想像もつかない貴重な体験もしました。

こうした体験は、座学では学ぶことができない実践

的な学びとなり、この「農場実習」での学びは講義の理解・定着にも活かすことができました。さらに私は、試行的に行われている農場実習発展編にも参加しました。そこでは世界的な視点から日本の農業課題を考えたり、大企業を訪問して最先端の技術を学んだりしました。農場実習を通じて、農業の楽しさや奥深さだけでなく、生産者や現場の大変さにも触れることができました。これらの経験から理解が一層深まり、視野が広がるとともに、学びの意欲が高まりました。

## 英語農学

英語でも専門の勉強をしよう

担当  
教員

英語農学研究室

McTaggart, Iain 准教授/Ph.D.

英語農学では、食料、農業、健康衛生、環境などの問題に関連する専門的な英語を学ぶことができます。農学科、農芸化学科、生命科学科、食料環境政策学科それぞれに関連した科目を中心に開講されており、授業では、重要な専門用語を学び、英語で問題や課題を説明し、討論の練習をします。また、少人数のグループに分かれて、それ

ぞれの研究や興味のある事柄や事象についてお互いに説明したり、話し合ったりする練習をします。英語農学の授業に参加することで、英語でのコミュニケーション能力を高め、持続可能な農業や農村地域、バイオテクノロジー問題、食品化学、気候変動といったテーマについて、自信を持って英語で話せるようになります。

## MESSAGE



### McTaggart, Iain 准教授

仕事や研究で、海外の人とコミュニケーションを取る必要性を感じる場面が増えてきていると思いますが、そのような場合、英語でコミュニケーションを取ることが多いのではないでしょうか。そこで、この授業では、農学に関する様々なトピックについて英語で「話す」「書く」練習をしながら、農業や食料生産、環境、農村資源管理といった問題について議論できるようになることを目指しています。これらの問題は、増加する世界人口の持続可能で健全な未来を確保するために重要です。授業では、教員からだけでなく、学生同士がお互いに助け合い、学び合えるように、少人数のグループ学習を中心にを行います。この授業で英語のコミュニケーション能力と自信を養い、世界に羽ばたきましょう。

### PROFILE

1985年グラスゴー大学理学部卒業。1992年エジンバラ大学大学院理工学研究科博士課程修了。スコットランド農業大学で環境スペシャリストとして15年間勤務。2007年より明治大学農学部特任准教授、2017年より現職。専門は環境科学。

## STUDENT VOICE



食料環境政策学科3年

山本 直季さん

埼玉県立大宮高等学校卒業

### 首尾一貫した英語での活動で伸ばす 「自分の英語で伝える力」

英語農学研究室は、環境問題に関する英語論文の探索、発表スライドの作成、そして発表まですべて英語で行う、一貫した英語活動を行うゼミとなっています。

英語で書かれた論文では、日本語では得られない最先端の情報に触れることができます。そこで得た専門的で難しい表現を、聞き手が理解できるように「自分の英語」で言い換える経験を通じて、英語で

の表現力を豊かにすることができます。また、予期せぬ質問にも英語で答えることで対応力も鍛えられ、これらの経験は海外での活動や、国際的なコミュニケーションに大いに役立つ「生きた英語力」を養います。

先生やゼミ生の仲間が作り出す「挑戦を歓迎し、果敢に英語での発言に挑戦できる環境」で、あなたも共に自身の英語力を磨き上げませんか。

## 文芸思潮

「境界線」を外してみれば、  
想像力の潮流は世界をつなぐ!

担当  
教員

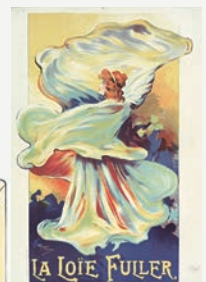
フランス語研究室

高瀬 智子 准教授

日本初の近代女優誕生の物語を知っていますか？  
どのような分野でも、パイオニアとよばれる人々の勇気と忍耐力なくしては、新たな扉が開かれることはありませんでした。「文芸」の世界の歴史もしかり。その影響は、フランスにおいては、演劇界、芸術界全体、さらには社会現象とも結びついてきます。フランスと日本の演劇・舞踊・絵画に関する交流、特に19世紀から20世紀への転換期における日仏芸術交流を紐解くことで、その頃の日本のアーティストの夢みていた未来を追体験すること、また、そこから

脈々と続く流れの中に身を置き、現代に生きる我々がさらなる未来を切り開く、ある種のヒントを得ることが、本講義の目指すところです。

今回文芸思潮でフォローする「パイオニア」は川上貞奴です。夫、川上音二郎率いる川上座と共に欧米を旅し、1900年パリ万博では「Sada Yacco」の名で親しまれ、現地のアーティスト、ロイ・フルーと共演、大人気を博します。そして1903年2月、日本初の「近代女優」として東京の舞台に立つことになります。このパイオニアたちの冒険スペクタクルを共に楽しみましょう!



貞奴・ロイ・フルーの  
ポスター

Sada Yacco,  
La Loie Fuller [affiche]  
Raymond Tournon, 1904  
© Source gallica.bnf.fr /  
BnF

# 段階的に専門知識を学べるカリキュラム

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように、各学科の総合教育科目と専門科目を並列したカリキュラムを設定。学科の枠を越えて幅広い知識を得ることで、農学という分野が自然、社会、人間、あらゆるものの基礎になっているということを理解します。3年次からは研究室に所属し、各自の

専攻科目を重点的に学んでいきます。単に専門的な知識や技術を習得するだけでなく、全地球的、全生物的視野に立ってマクロ的に事象を把握し、対処できる人材の養成を目指します。

## [ カリキュラムの特長 ]

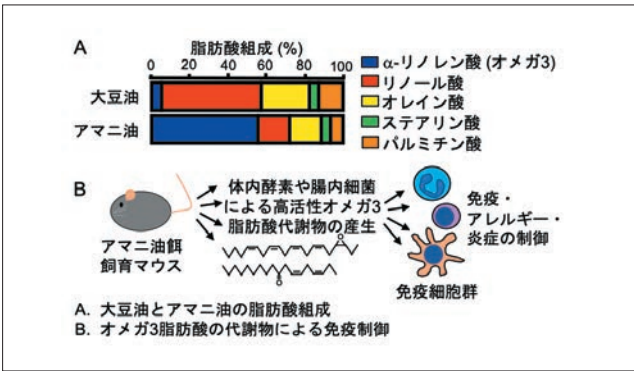
総合教育科目(全学科共通)	専門科目								
幅広い領域をカバーしたカリキュラムで、農学に関する土台を確実に身につける	2年次から3・4年次にかけて、専門科目を関連づけて学習できる履修モデルを準備								
<table border="1"> <tr><td>教養科目群</td></tr> <tr><td>共通専門科目群</td></tr> <tr><td>外国語科目群</td></tr> <tr><td>保健・体育科目群</td></tr> <tr><td>総合教育ゼミナール(サブ・ゼミナール)</td></tr> </table>	教養科目群	共通専門科目群	外国語科目群	保健・体育科目群	総合教育ゼミナール(サブ・ゼミナール)	<table border="1"> <tr><td>基礎科目群</td></tr> <tr><td>専攻科目群</td></tr> <tr><td>卒論関係科目群</td></tr> </table>	基礎科目群	専攻科目群	卒論関係科目群
教養科目群									
共通専門科目群									
外国語科目群									
保健・体育科目群									
総合教育ゼミナール(サブ・ゼミナール)									
基礎科目群									
専攻科目群									
卒論関係科目群									

## [ 専門性を高める学び ]

1・2年次	3・4年次
専門分野の 実験・実習に取り組む	研究室に所属し、 卒業研究に取り組む

## [ 農学部4年間の流れ ]

1年次	2年次
<p>自分の興味や将来の希望を見据え、4年間の学習目標全体を考えます。総合教育科目(教養科目群、共通専門科目群、外国語科目群、保健・体育科目群)を中心に、基礎科目群と1年次に指定された専攻科目群を学びます。次第に学科ごとの違いや、自分が専門として何を学ぶべきかが明らかになってくるでしょう。</p> <div data-bbox="215 1422 448 1460"> <h3>学びの基礎を築く</h3> </div> <div data-bbox="215 1568 448 1659"> <p>農学科1年                      谷本 日向子さん                      岡山県立岡山朝日高等学校卒業</p> </div> <div data-bbox="555 1429 724 1659"> </div> <p>農学科の1年次では、農学に関する導入、基礎科目から一般教養科目まで幅広く学びます。導入科目では、作物、土壌、動物、都市景観といった、農学科で扱う各分野についてを一から学ぶことができます。また、大学院生の先輩からサポートを受けられる場も用意されているため、高校で生物を履修していない場合でも、授業を十分に理解し、身につけることができます。さらに、1年次から、実際に圃場に出た実習や農学に関する実験を行う機会が設けられているため、早くから実践的な知識を得られることも特徴です。幅広く学び自分が興味・関心のある分野を見つけることで、2年次でのより専門的な学びへとつながることができます。</p>	<p>総合教育科目と専門科目の基礎科目群に、専攻科目群が加わってきます。学科の枠を越え、幅広い知識を得ることで、おのずと農学という分野が、自然・社会・人間のあらゆる基礎と、その上に繰り広げられた成果によって支えられていることに気づくはずですよ。</p> <div data-bbox="898 1422 1069 1505"> <h3>広がる知識 深まる思考力</h3> </div> <div data-bbox="898 1568 1106 1659"> <p>農芸化学科2年                      石井 知季さん                      埼玉県立浦和高等学校卒業</p> </div> <div data-bbox="1233 1429 1409 1659"> </div> <p>2年次では、化学や生物の基礎的な内容に加えて、食品や植物、環境などの多岐にわたる専門分野にも取り組んでいきます。特に農芸化学科は実験の多い学科であり、基本的なバイオテクノロジーや分析手法を身に付けます。このような講義と実験を経験していくうちに、知識を習得するだけでなく思考力や主体性も高めることができます。さらに3年次に向けて研究室訪問や研究室発表会に参加します。これらを踏まえ、2年次の終わりには研究室を選びます。そして研究室選択には成績が重要視されます。つまり希望する研究を行うためには勉強を疎かにできないということです。この学科で学ぶ範囲は広いですが、その中の1つ1つをしっかりとつなげていくことで農芸化学という分野の理解を深められると考えます。</p>



実験や実習で得た学びを、研究室や個人での研究に活かします。

### 3 年次

専門科目を重点的に学ぶ学年です。各自の所属する学科と、専門とする研究分野(ゼミ・研究室のテーマ)に関係の深い科目を中心に授業計画を立てます。文献調査や卒業研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動も加わるため、とても重要かつ充実した1年になります。

#### 専門性を高め 実践力を身につける



生命科学科3年  
笠原 桃子さん  
愛知県立瑞陵高等学校卒業

3年次は、これまでに培った基礎知識をもとに、より専門的な学びへと進む時期です。各自が所属する学科や研究室のテーマに沿った専門的な授業が中心となり、より実践的な内容を学びます。実験・実習の比重も高まり、自らの手でデータを集め、分析し、考察する力が養われます。また、卒業研究に向けて研究室に所属し、先生や先輩から研究手法を学びながら、自分の関心のあるテーマを探求する機会も増えます。研究は思い通りに進まないこともありますが、その試行錯誤の過程が成長につながります。また、フィールドワークやインターンシップなど、学んだ知識を社会で活かす経験も得られます。こうした実践的な学びを通して、専門知識を深めるだけでなく課題を発見し解決へ導く力や、仲間と協力して成果を生み出す力が身につく1年です。

### 4 年次

卒業論文のための研究が中心になります。視野を広げるため、前年度まで履修していない科目を補うこともできます。進学希望者は大学院科目の一部を学ぶこともできます。最後の仕上げの年です。就職・進学の準備をしながら、悔いのない学生生活を送りましょう。

#### 学びが形になる 4年生



食料環境政策学科4年  
吉江 太志さん  
富山県立高岡高等学校卒業

4年次は、ゼミ活動や卒業論文が主な活動となり、これまでの学びを元に自分の興味を形にしていく1年間になります。1~3年次の時とはまた違い、主体的に行動し、自ら課題を設定して深める姿勢が求められます。私は「農村におけるAI活用」をテーマに卒業論文を進め、AIの発達が生産者の農業に与える変化を調査しています。ファームステイ実習やフィールドワーク実習、講義で培った農業への理解や行動経済学の視点を活かし、研究に手応えを感じています。また、ゼミでは学園祭に出展し、3年次のフィールドワーク実習先のインド農村で学んだ本格チャイを振る舞いました。仲間と協力して企画を形にする過程は楽しく、学びを共有する貴重な経験になりました。大学でのすべての経験が、未来の自分をつくる糧になります。一つひとつの出会いや挑戦を大切にしながら、仲間とともに充実した学生生活を過ごしてください。

○ 食料生産と環境保全の分野で社会貢献を目指す

## 学科の概要

農学科は、自然と調和を保った高度文明社会を実現させるために、「食料」と「環境」の分野で地域や国際社会で活躍できる人材を養成することを使命としています。人類の持続的生存について俯瞰的・長期的視点から洞察し、農学全般においての問題点を発見し、それらを解決する能力を身につけられるよう、系統的かつ幅広いカリキュラムと研究領域を設けているのが本学科の特長といていいでしょう。学生は3年次より研究室に所属し、総合科目で裏づけられた倫理観・世界観をベースに、新農業資源の開発、水・土地資源を活かした食料の安定生産、農村と都市の環境保全や緑の保全・創生などに関する専門知識を身につけていくことになります。

## 学科主要科目

1  
年次

### ▶ 基礎科目群

科学基礎科目		導入科目
数学概論	化学概論	栽培学入門 アニマルサイエンス入門 ランドスケープ入門 生産環境学入門
地学概論	物理学概論	
地学実験		

2  
年次

### ▶ 基礎科目群

科学基礎科目
物理学実験

### ▶ 専攻科目群（基幹科目）

農地工学	農学実験Ⅲ	水理学
応用力学	農学実験Ⅴ	
保全生態学		
農学実験Ⅰ		

### ▶ 専攻科目群（分業別科目）

食料生産関係		
野生動物学	動物感染症学	農村計画学

3  
年次

### ▶ 基礎科目群

技術者倫理

### ▶ 専攻科目群（分業別科目）

食料生産関係			
動物育種学	実験動物学	野菜園芸学	工芸作物学
動物資源繁殖学		花卉園芸学	植物ウイルス学
熱帯農学		植物病害制御学	害虫管理学
動物資源機能利用学		植物育種学	園芸植物繁殖学
動物環境学		生産システム学	植物成長制御学
		食用作物学	雑草学
		果樹園芸学	
		植物病理学	
		応用昆虫学	
		植物線虫学	
		肥料学	

3・4  
年次

### ▶ 卒論関係科目群

文献調査・特別研究(卒論)

## 目指す将来イメージ

種苗会社  
農業関連企業

教員  
大学院進学

食品関連企業  
製薬企業  
臨床開発関連会社

みどり・  
デザイン  
関連会社

国家公務員  
地方公務員  
(農業・畜産・造園・  
農業土木・林業など)



## Q カリキュラム解説

### 「食料生産」と「環境」

人口増などの社会情勢や地球温暖化などの環境変化に対応した持続的な食料生産や環境保全を行うための知識や技術を総合的に身につけることを目標とし、「食料生産」と「環境」を大きなキーワードとして教育を行っています。



#### 農学基礎科目

農学基礎実験  
基礎生物統計学  
マクロ生物学入門  
分子生物学  
応用生物統計学  
植物生理学

基礎図法  
土壌学  
生物多様性進化学  
動物生理・栄養学  
動物生産制御学

#### ▶ 専攻科目群

動物行動学  
資源植物学  
土壌物理学  
専門実習Ⅰ  
専門実習Ⅱ  
職業指導

#### 農学基礎科目

植物遺伝資源学  
測量学Ⅰ

動物遺伝資源学  
バイオテクノロジー  
測量実習Ⅰ

基礎植物育種学

作物学概論  
動物生産・福祉学  
植物保護学概論

生産システム学概論  
農学実験Ⅱ  
農学実験Ⅳ  
農学実験Ⅵ

環境気象学  
園芸学概論

#### 環境関係

構造力学  
応用水理学

測量学Ⅱ  
測量実習Ⅱ

ランドスケープ計画学

化学実験

#### 環境関係

生産気象学  
材料施工学  
プロジェクト  
計画法  
農業水利学

景観園芸学  
ランドスケープ  
設計学  
ランドスケープ  
エコロジー

生物多様性  
再生学  
アグロエコロジー  
ランドスケープ  
工学  
ランドスケープ  
情報論

#### 基幹科目

土質力学  
ランドスケープ  
デザイン学

※カリキュラムは変更となる場合があります。

## Pick up

### 生態系の多様な相互作用を知ろう

生物の個体から生態系へと視野を広げて構成要素どうしの関係を理解し、食料生産と環境保全の分野に活用する教育・研究を行っています。



## Student Voice

### 学生の声

農学科3年

白石 晴さん

東京都立青山高等学校卒業



### 幅広い学びから専門的な学びへ

農学科では、持続的な農業生産や人間活動のために必要な技術や倫理観を、講義と実験・実習を通して学ぶことができます。穀物や野菜などの作物生産から動物、病害虫防除、農業土木、さらには環境まで、幅広い分野を学べるのが特徴です。1年次には基礎を学び、2年次には各分野の実験を通して、それぞれの研究手法を実際に体験し、専門分野を選択します。3・4年次には、配属された研究室でこれまでの知識を応用し、より専門的な学習に取り組めます。

私は環境気象学研究室に所属しています。地球温暖化の緩和を目的として、北海道の劣化した泥炭地湿原の植生を再生させる技術の開発に取り組んでいます。実験やフィールド調査で得られたデータを整理し、先生や研究室メンバーと検討を重ねることで、新たな気付きを得ることができます。そこから自分なりに考察し、問題の解決へどう活かすかを考える過程に、研究の面白さを感じています。

## Message

### 教員からのメッセージ

環境気象学研究室

矢崎 友嗣 准教授



### 食料生産と環境保全の持続的な両立への挑戦へ

地球温暖化や社会構造の変化により、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、人類を支える食料と自然環境が危ぶまれています。このように変化しつつある状況の中、食料生産と環境保全の持続的な両立を担う人の育成は喫緊の課題です。農学科では、将来食料生産と環境を支える人材の育成のため、作物や家畜生産、農業生産環境や生活環境の保全など幅広い分野を対象とした基礎的な学びからスタートし、その中から興味のある専門分野を選択し研究活動を通じて、学びを深めることができます。私たち教員は、講義、実験、フィールドワークを通じて、将来、皆さん自身の力で課題を解決できるよう皆さんの挑戦をサポートします。

## ▶ 農学科の4年間の学び

1 年次

2 年次

### 農学を広い視点から学ぶ

農学科1年  
山岡 孝太郎さん  
兵庫県西宮市立西宮高等学校卒業



1年次では作物栽培、生産環境や動物、都市景観といった分野に触れることで、広い視点から農学を学びます。さらに、週に一度、農場実習または農学基礎実験があり実践的な学びを得られる機会があります。また、学年が上がっても欠かせない英語やその他の基礎教養科目も学び、専門的な学習のための基盤作りを行います。その中で自分の興味のある分野を見つけていくことができます。

#### 〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	スペイン語IIa スペイン語IIb	スポーツ実習II	ランドスケープ入門 土壌学	栽培学入門 英語III	-	-
2	マクロ生物学入門	英語Ia 英語Ib	動物生理・栄養学	アニマルサイエンス入門 科学英語	スペイン語Ia スペイン語Ib	-
3	農学基礎実験/農場実習I 農学基礎実験/農場実習II	スポーツ実習II	生産環境学入門 Global Competence B	英語コミュニケーション	アグリサイエンス論	-
4	農学基礎実験/農場実習I 農学基礎実験/農場実習II	農業経済初歩概説 健康科学	地学概論 Global Competence A	-	ICTベーシック 英語III	-
5	-	-	社会学	-	-	-

授業紹介

### 生物多様性進化学

#### 多様性のヒミツをさぐる生物学 — 農学への入口

本講義では、農学を学ぶための基盤となる“生き物を見る視点”を身につけます。植物や微生物、昆虫や線虫——農の現場は、多様な生き物たちのかかわりによって成り立っています。では、生命はどのようにその多様な姿へと進化し、環境や他の生物と関係を結んできたのでしょうか。「なぜこの形なのか?」「なぜこの生き方を選んだのか?」身近な疑問の中に、最先端の生物学と農学の思考が息づいています。生き物の視点から農を見つめなおし、進化と多様性がつくり出す生命の豊かさとおもしろさを、大学での学びの最初の一步としてともに感じていきましょう。(新屋良治教授)



### 視野を広げる

農学科2年  
石川 茉奈さん  
栃木県立宇都宮女子高等学校卒業



2年次になると1年次の時よりも専門的な内容に取り組みます。農学実験という、6つそれぞれの研究分野に関係する実験の授業を履修できることが特徴です。そして、秋学期からは研究室の選択が始まります。研究室の選択は大学において最も重要なイベントの一つなので、不安に思う方も多いと思います。様々な分野の授業を学んでおくことが自分の将来の進路を広げるきっかけになるかもしれません。

#### 〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	動物遺伝資源学	化学基礎	園芸学概論	植物遺伝資源学 資源植物学	英語IIa 英語IIb	-
2	保全生態学	動物資源繁殖学 動物生産・福祉学	-	バイオテクノロジー 動物行動学	心理学A 植物保護学概論	-
3	農学基礎実験/農場実習I 農学基礎実験/農場実習II	物理学基礎	Global Competence B	ランドスケープ計画学 English Communication IIB	アグリサイエンス論 文芸思潮	-
4	-	-	西洋の歴史 農学実験II	-	-	-
5	環境気象学 土壌物理学	-	-	-	-	-

授業紹介

### 応用水理学

#### 水利施設設計の楽しみを学ぼう

圃場で作物を育てるためには、水の供給(かんがい)や排水(余剰の水の排除)が必要です。応用水理学では実際の農業用水路やパイプライン、ポンプ、取水堰などの水利施設の設計に関する基礎を学びます。実際の流れは理論式だけでは表現できないこともあるので、どのように理論と現実を適応させて設計するかを考えることは難しくもあり、楽しいところでもあります。写真はパイプの隙間から川を流れる水と礫を分離して水だけを用水として取水する施設です。このような一見、複雑な構造物の設計もできるようになります。実際の水利施設設計につながる授業を楽しんでほしいと思っています。(小島信彦准教授)



## 3年次

### 専門的な知識を深める

農学科3年  
尾坂 駿太さん  
石川県立小松高等学校卒業



3年次では専攻科目群の授業が増え、研究室の活動も始まります。農学科には多種多様な授業があり、自分の学びたい内容を深く学ぶことができます。また、研究室も多種多様であり、興味のある研究室を見つけやすいと思います。私は動物生産学研究室に所属し、豚の飼育形態について研究しています。

#### 〈時間割の例(3年次)〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	応用昆虫学	野菜園芸学	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	害虫管理学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
2	動物育種学	食作物学	植物病害制御学	熱帯農学	卒業研究	-
	卒業研究	実験動物学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
3	職業指導	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
4	卒業研究	研究室ゼミ	技術者倫理	動物資源機能利用学	植物病理学	-
	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
5	-	-	-	-	-	-

研究室REPORT

### 動物生産学研究室

#### 安心・安全な畜産物を生産するために

近年、世界的な人口増加に伴う食料需要の拡大により、良質なタンパク源として畜産物への需要が増加しています。一方で、ウシ由来のメタン排出による環境問題や、食料と飼料の農地競合など、畜産に関連する社会課題が指摘されています。本研究室では、疫学的アプローチやデータサイエンスを駆使し、「食料資源確保を目的とした持続可能な畜産業の確立」に貢献する研究を行っています。



担当教員より

佐々木 羊介  
准教授

大学でメインとなる「研究」は、既知の事実を学ぶ「勉強」と異なり、未解明の課題に挑み、新しい知見を創造します。当研究室は持続可能な畜産業の確立を目指して、未解決問題の解決を目指します。未来の畜産を形作る研究に是非一緒に取り組みましょう。

## 4年次

### 好きなことを、とことん

農学科4年  
加島 美空さん  
岐阜県立岐阜高等学校卒業



4年次では、授業のほかにも所属研究室のゼミナールや卒業研究に取り組みます。ゼミナールでは、自分の研究にかかわる英語論文をプレゼンテーションします。研究分野について理解を深めるとともに、プレゼンテーション力も身につけます。私が所属している研究室では、研究活動の時間は決まっていないため、自分で計画を立て、同期や後輩と協力して作業を進めていきます。自分の好きな学問をとことん極めることができます。

#### 〈時間割の例(4年次)〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
3	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
4	-	-	ゼミナール	-	-	-
	-	-	ゼミナール	-	-	-
5	-	-	ゼミナール	-	-	-
	-	-	ゼミナール	-	-	-

研究室REPORT

### 作物学研究室

#### 食糧生産を強く意識する

イネ、ムギ、ダイズ等の作物は私たち人類にとって重要な食糧です。しかし、人口増加、気候変動、農家の減少等の様々な要因により日本および海外食糧の生産性が不安定となっています。作物学研究室では、イネを始めとする穀類、マメ類、イモ類の作物の生産性を向上させるために、作物が備える潜在能力を引き出すための生理生態メカニズムの解明、栽培技術の開発を行っています。



担当教員より

塩津 文隆  
准教授

食糧・環境問題の解決には農学の力、そして皆さんの熱い情熱が必要です。生田キャンパスで農学を学び、追求し、様々な困難も乗り越えて、日本の農業、そして世界の農業へ貢献できる方法を一緒に生み出していきたいです。

卒業生からのメッセージ

「探求心」を育む学びの場

伊藤忠食品株式会社  
 管理本部人事総務部人事チーム  
**永田 健人**さん



農学科 2024年卒業

食料や環境に関する様々な講義・実験・実習を通して、自身の興味を探求心へと変え、学びを深められるのが農学科です。3年次に配属となる研究室では、専門的な知識と、多角的な視点を養うことができました。社会人となった今でも、学生時代に学んだ経験が十分に活かされています。皆さんにも、探求心をもって挑戦する楽しさを、ぜひ農学科で感じてほしいと思います。

インタビュー動画 ▶ 農学科卒業生の活躍の様子はこちら



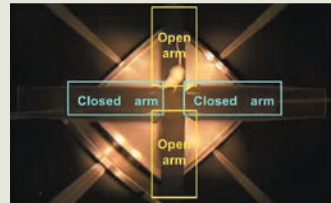
TOPICS

動物を取り巻く環境

環境中の化学物質は脳に影響する？

環境中には様々な化学物質が存在し、ヒトも動物も知らず知らずのうちに曝露されています。例えば、農業や排気ガス、食品の梱包材や調理器具の撥水剤などの環境中の化学物質の中には、ヒトや動物の体内から検出されるものも少なくありません。そしてその中には、ヒトや動物の脳に対して不可逆的な構造的変化を引き起こし、その後の脳の機能と行動を永続的に変化させる可能性がある化学物質もあるのです。危険であることが分かった化学物質については規制されますが、毎年新しく数千から1万種類以上の化学物質が世界で使われるので、まだ脳への影響が分かっていない物質はたくさんあります。私たちは、この膨大な未知の危険に対し、少しでも被害を防ぐため、ラットの行動などを指標に化学物質の影響を評価しています。例えば、化学物質を曝露して不安が増えるかどうかは高架式十字迷路試験で調べています。あなたも化学物質の影響を研究して、ヒトや動物の環境を守りませんか？(川口真以子教授)

高架式十字迷路試験



不安様行動の解析方法。不安が大きいときにはOpen armへの侵入が減少

DATAでわかる農学科

■ 在籍状況 (2025年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	108(65%)名	59(35%)名	167名
2年	102(65%)名	54(35%)名	156名
3年	83(53%)名	74(47%)名	157名
4年	103(62%)名	64(38%)名	167名
合計	396(61%)名	251(39%)名	647名

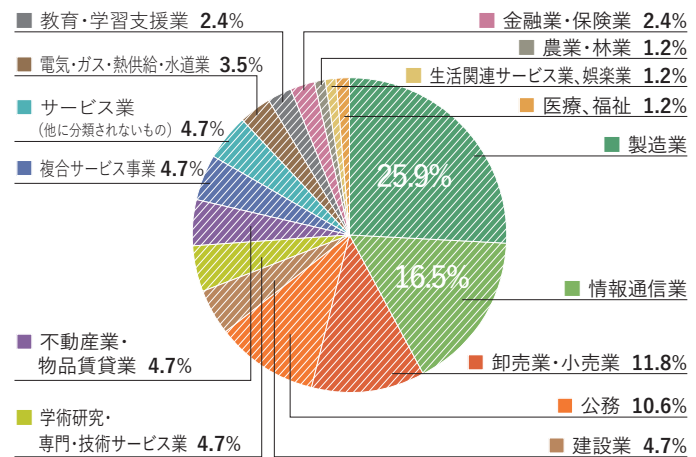
■ 研究室状況 (2025年4月1日現在)

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
17	13人	81.7%

■ 2024年度進路状況



■ 2024年度就職実績



■ 2024年度主な就職先 (大学院生を含む)

- ・国家公務員 (総合職)
- ・富士通 (株)
- ・フジパングループ本社 (株)
- ・全国農業共同組合連合会
- ・伊藤忠飼料 (株)
- ・北海道庁
- ・NECソリューションイノベータ (株)
- ・川崎市役所
- ・Umios (株)
- ・NTT東日本グループ
- ・(株)極洋
- ・森永乳業 (株)
- ・神奈川県庁
- ・双日食料 (株)
- ・山崎製パン (株)
- ・国家公務員 (一般職)
- ・(独)都市再生機構
- ・(株)ロッテ
- ・日本ハム (株)
- ・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構

# 農学科 教員と研究テーマ

農学科の  
ホームページは  
こちら！



**農学科**

① 研究室名・担当科目 ② 研究テーマ

**川口 真以子** 教授/博士(医学)

- ①動物環境学研究室
- ②環境改善を目的とした環境因子の動物への行動神経内分泌学的解明

化学物質や養育方法等の環境因子が動物へおよびす影響について研究し、動物福祉や生産性の向上へ寄与することを目指しています。



**元木 悟** 教授/博士(農学)

- ①野菜園芸学研究室
- ②野菜類の生理・生態解明と安定生産技術・新栽培法の開発

野菜類の生理・生態の解明とともに、野菜の生産現場を意識した安定生産技術および作型の開発を目指しています。



**佐々木 羊介** 准教授/博士(農学)

- ①動物生産学研究室
- ②家畜の生産性やアニマルウェルフェア向上に関する疫学研究

疫学的アプローチやデータサイエンスを駆使して、食料資源の確保を目的とした持続可能な畜産の確立に貢献する研究を行っています。



**矢崎 友嗣** 准教授/博士(農学)

- ①環境気象学研究室
- ②持続可能な人間活動に向けた生態系の微気象・物質循環の解明

湿地や森林の微気象や炭素循環を理解し、環境問題の解決や持続的な利用を目指します。



**池田 敬** 教授/博士(農学)

- ①生産システム学研究室
- ②養液栽培・植物工場などにおける環境調節および水分生理学的手法を用いた園芸作物の環境応答に関する研究

生産現場で発生する様々な問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。



**新屋 良治** 教授/博士(農学)

- ①植物線虫学研究室
- ②寄生線虫病および線虫の環境適応メカニズムに関する基礎・応用研究

農業に被害をもたらす寄生線虫病の制御手法開発を念頭に置き、線虫の寄生・生殖・行動の解明とその進化プロセスの研究をしています。



**大里 修一** 准教授/博士(農学)

- ①植物病理学研究室
- ②植物病原菌の病原性解明と病害防除・診断技術の開発

植物の病気を分子レベルで解き明かし、バイオテクノロジーを駆使して病気に強い植物を生み出すための基礎研究を行っています。



**塩津 文隆** 准教授/博士(農学)

- ①作物学研究室
- ②作物の潜在的な生産能力を高める生理生態機構の解明と栽培技術への応用

作物の潜在的な生産能力に対する生理・生態学的な特性を解明し、持続的・安定生産が可能な栽培技術の開発を目指しています。



**小泉 敬彦** 専任講師/博士(環境学)

- ①アグロエコロジー研究室
- ②生態学の知見を生かした持続可能な農業の研究

生き物同士のつながりが生態系を支えています。自然の仕組みを解き明かし、未来につづく農業の姿を探究しています。



**糸山 享** 教授/博士(農学)

- ①応用昆虫学研究室
- ②害虫や天敵昆虫の生存戦略を検証し、それらを活用した害虫防除技術を開発する

害虫や天敵昆虫の生理・生態的な特性を多面的に解析し、農業だけに頼らない効果的かつ効率的な防除技術の開発を目指しています。



**半田 高** 教授/農学博士

- ①花卉園芸学研究室
- ②花き(観賞植物)遺伝資源の多様性と利用

花の野生種と園芸品種の多様性解析や増殖、切り花の開花や老化を研究しています。



**菅野 博真** 准教授/博士(工学)

- ①環境デザイン研究室
- ②文化景観の空間構造と住人コミュニティの分析について、中国大都市の都市化とマージナルエリアの居住環境の変容について

戦後、常に経済最優先で形成されてきた日本の都市や農村の空間について、将来の質的転換をはかる方策について追究しています。



**津田 勝利** 准教授/博士(理学)

- ①植物育種学研究室
- ②イネの形態形成・生殖過程に関する分子遺伝学研究

出穂から結実までの生殖過程は、農業的に重要なイベントの連続です。これらの仕組みを解明し、育種に役立ちます。



**網島 彩香** 助教/博士(農学)

- ①応用昆虫学
- ②果樹害虫ツヤオオカメシならびにその天敵群の生態的特性に関する研究

近年の地球温暖化で変化する害虫の生活史や天敵との相互作用に注目し、防除技術の提案や改善を目指しています。



**岩崎 直人** 教授/農学博士

- ①果樹園芸学研究室
- ②地球的規模の環境変動下における各種果樹の生産性の解析と果実品質に関与する樹体内生理に関する研究

地球環境の変動が各種果樹の生産性におよぼす影響について解析し、持続可能な新しい生産体系の確立に取り組んでいます。



**溝口 康** 教授/博士(農学)

- ①動物遺伝資源学研究室
- ②畜産学・獣医学・野生動物学に貢献できる遺伝学研究

畜産、愛玩、野生動物を対象とした動物遺伝学研究を行い、資源、生産、獣医、保全分野への貢献を目指します。



**小島 信彦** 准教授/博士(農学)

- ①水資源学研究室
- ②溪流取水工を用いた持続的な利水システムの確立

環境に配慮した操作や管理が容易で省エネルギーな水利施設の開発や水を適切に利用するためのシステムの確立を追究しています。



**服部 俊宏** 准教授/博士(農学)

- ①地域環境計画研究室
- ②都市のスマートシリングとアーバンフリンジの再構築、地域環境・資源管理を支える人と組織

農地を中心とした空間管理とそれを支える人の問題を追究します。地域が健やかであること、豊かであること、持続的であることが目標です。



\* 研究者は退職等により変更となる場合があります。 \* 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

# 農芸化学科

。 人間生活に密着したバイオサイエンスを学ぶ

## 学科の概要

農芸化学科では、私たちの生活にかかわりの深い食品や環境分野の問題を、バイオテクノロジーと最新のサイエンスによって解決することを目指しています。微生物を用いた環境にやさしい技術の開発、おいしくて健康に良い食品の研究開発、植物生産や環境の資源である土壌の研究、動植物や微生物が生産する有用物質の検索など、農芸化学のフィールドには多くの重要な研究テーマがあります。

こうした分野で社会に貢献できる人材を育てるために、農芸化学科では豊富な実験・実習(1・2年次)と2年間かけて取り組む卒業研究(3・4年次)をカリキュラムの中心に据えています。バイオサイエンスの基礎知識と実験技術を持つ卒業生は、食品・医薬・化学などの幅広い分野で活躍しています。

## 学科主要科目

		1年次		2年次								
▼基礎科目群	必修	必修化学 生化学Ⅰ 必修生物学	有機化学 生化学Ⅱ 微生物学 基礎分子生物学	環境科学 分子生物学 植物栄養学 物理化学	生物有機化学 有機分析化学 食品化学 土壌化学 栄養科学							
	選択	農芸化学 地学概論 基礎生物統計学 化学実験 地学実験 職業指導		細胞生物学 物理学(力学・熱力学) 物理学実験	物理学(電磁気学・光学) 数学概論							
		1年次		2年次								
▼専攻科目群	選択	微生物学実験	生化学・物理化学実験 環境化学実験	微生物生理学 有機化学・有機分析実験 環境分析実験 化粧品科学	食品化学・食品分析実験 バイオテクノロジー実験 食品衛生学							
			3年次									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>食品分野</th> <th>生物機能分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食品機能化学 発酵食品学 栄養生化学</td> <td>食品生化学 食品工学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>天然物有機化学 応用生化学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生物機能化学 生物物理学 ケミカルバイオロジー 微生物化学</td> </tr> </tbody> </table>	食品分野	生物機能分野	食品機能化学 発酵食品学 栄養生化学	食品生化学 食品工学		天然物有機化学 応用生化学		生物機能化学 生物物理学 ケミカルバイオロジー 微生物化学		
食品分野	生物機能分野											
食品機能化学 発酵食品学 栄養生化学	食品生化学 食品工学											
	天然物有機化学 応用生化学											
	生物機能化学 生物物理学 ケミカルバイオロジー 微生物化学											
		3・4年次										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>食品分野</th> <th>生物機能分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食品免疫学 食品健康科学</td> <td>食品冷凍冷蔵学 食品安全学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>農薬化学 生命システム工学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高分子化学 応用微生物学</td> </tr> </tbody> </table>	食品分野	生物機能分野	食品免疫学 食品健康科学	食品冷凍冷蔵学 食品安全学		農薬化学 生命システム工学		高分子化学 応用微生物学			
食品分野	生物機能分野											
食品免疫学 食品健康科学	食品冷凍冷蔵学 食品安全学											
	農薬化学 生命システム工学											
	高分子化学 応用微生物学											
▼卒論関係科目群	選択	3・4年次履修 文献調査 特別研究(卒論)										



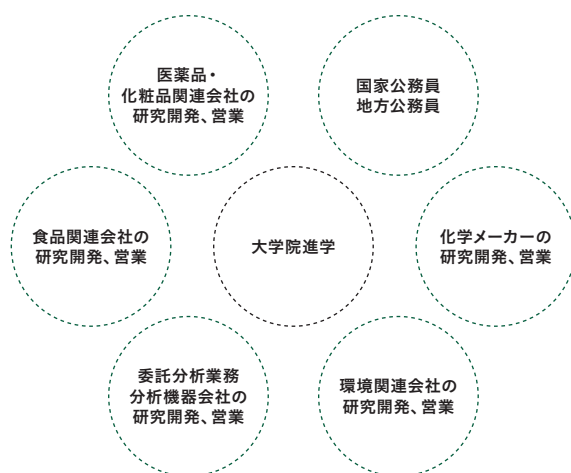
## Q カリキュラム解説

### 食品・環境分野の諸課題を解決する

食品・生物機能・環境分野において重要な健康・機能・安全・保全を評価し高めるために必要な幅広い専門知識や実験技術を深く修得することを目的としたカリキュラムを設置しています。



#### 目指す将来イメージ



環境分野	
土壌園科学	環境分析化学
微生物生態学	植物環境制御学
微生物遺伝学	環境バイオテクノロジー

環境分野	
環境化学	環境微生物学
	土壌環境保全学

※カリキュラムは変更となる場合があります。

## ▶Pick up

### 化学と生物の力で 諸問題の解決を!

化学と生物を融合したバイオテクノロジーで、食や健康の問題、環境の保全といった人類の大きな課題の解決を目指しています。



## Student Voice

### 学生の声

農芸化学科4年

新開 千絵さん

神奈川県

私立函嶺白百合学園高等学校卒業



#### 植物の巧みな生き方を理解する

生育場所を変えることができない植物は、体内で様々なホルモン分子を作り出し、それらを利用して自身の成長を調節し、変動する環境に適応して生きています。

私が研究している対象は、ストリゴラクトンという、栄養に反応して地上部の枝分かれを制御する植物ホルモンです。化学的な手法も駆使することで、その作用メカニズムを解明し、将来的には農作物の収量向上等に役に立つ技術に応用できればと考えています。

研究が思うように行かず苦労することもあります。切磋琢磨し合える仲間がいることに加え、面白い結果が出た時は心が躍り、日々実験を頑張ることができています。また、普段の研究以外にも、ゼミ合宿や学会での発表など様々なイベントがあるため、とても充実した学生生活を送ることができています。

## Message

### 教員からのメッセージ

植物制御化学研究室

瀬戸 義哉 准教授



#### 「のうばけ」で一緒に学びましょう!

農芸化学科では、食品、微生物、植物、土壌など、私たちの生活に身近な対象をテーマに、研究や教育活動に取り組んでいます。農芸化学、通称「のうばけ」は、一見すると聞き慣れない分野かもしれませんが、実際に学んでみると、身近で親しみやすい学問であることに気づくでしょう。対象が幅広いため、1・2年次には有機化学、生化学、分子生物学、微生物学など、様々な分野の基礎を学び、3・4年次にはより専門性の深い科目を履修します。また、3年次以降は研究室に在籍し、最先端の技術や知識を駆使して、新しい発見や技術・製品の創出を目指した研究に取り組みます。研究には試行錯誤も多いですが、その分、成果を得られたときの喜びはひとしおで、人としても大きく成長できます。是非、「のうばけ」で私たちと一緒に学びませんか?

## ▶ 農芸化学科の4年間の学び

### 1 年次

#### 学びの土台を築く 1年間

農芸化学科1年  
櫻井 望宝さん  
長野県長野高等学校卒業



1年次では、多様な必修科目を中心に農芸化学を学ぶための基礎的な知識を身につけます。1年を通して週に2~3回ほど学生実験があり、実際に実験器具を扱いながら金属イオンの分離や微生物の同定などを行います。実験内容は担当する先生ごとに異なるため、幅広い分野に触れることができます。学生実験や農場実習では仲間と協力し、互いに助け合いながら実践的に学べる点も大きな魅力です。

#### 〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	スポーツ実習I	スペイン語Ia スペイン語Ib	必修化学 有機化学	微生物学I 生化学II	心理学B	-
2	健康科学	経済学	スペイン語IIa スペイン語IIb	英語Ia 英語Ib	生化学I 基礎分子生物学	-
3	生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験 環境化学実験	生命科学初歩概説 微生物学II	フィールド先端農学 科学英語	-
4	生物学基礎 生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験 環境化学実験	-	生物学	-
5	-	-	-	-	農芸化学	-

授業紹介

#### 必修生物学

#### 生物学の基本を学んでおこう

農芸化学は化学と生物が車輪の両輪です。生物学は非常に幅の広い学問ですが、2026年度新規開講の必修生物学では農芸化学でやっていくために必要な生物学の内容をコンパクトにまとめて講義します。有機分子、細胞の構造、エネルギーの獲得、遺伝学の基礎、バイオテクノロジー、進化、植物の応答、動物の形態と感覚器、生態学などが主な内容です。毎回ガラリと対象が変わりますが、豊富な図版と簡単な演習問題を交えて講義が進みます。生物学は人間もその対象です。決して覚えるだけの学問ではありません。学習が進めば、生きとし生けるものに共通の原理と不思議、その美しさに心が躍ることでしょう。  
(中島春紫教授)



### 2 年次

#### 自分の興味を見つける学び

農芸化学科2年  
北川 悠斗さん  
愛知県立旭野高等学校卒業



2年次では、1年次よりもより専門的な科目や実験を通じて学ぶことができます。農芸化学の多岐にわたる分野を一通り理解することで、自分が興味のある分野を見つけ、3年次からの研究室配属に向けて自身の将来について考える1年間になります。また、2年次では時間的な余裕も生まれるため、興味のある活動に挑戦したり深めたりすることで、より充実した大学生活にすることができます。

#### 〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	物理化学 有機分析化学	ICTベーシックI	-	細胞生物学	環境科学 土壌化学	-
2	化粧品科学 食品化学	分子生物学 栄養科学	英語IIa 英語IIb	植物栄養学	-	スポーツ実習II
3	有機化学・有機分析実験 科学英語	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	-	-	生物有機化学
4	有機化学・有機分析実験 スポーツ実習II	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	-	科学英語	-
5	-	-	-	-	-	-

授業紹介

#### 土壌化学

#### 土壌の価値を発見する

農芸化学科では幅広い分野を学ぶことができます。その証左のひとつが「土壌」の価値を知ることだと思います。何気なく地面に広がる「土壌」と言われて何をイメージしますか？土壌によって我々に必要な食糧の多くが生産されるため、土壌は有限な「資源」です。土壌化学は、土壌の化学的機構を中心に土壌の構造と機能を基礎科学の視点から理解できるよう講義を展開しています。土壌化学を受講することで、土壌の機能があってこそ、農業生産や環境保全が成り立っていることを理解できると考えています。(加藤雅彦教授)



土壌中のμmスケールでの化学的な反応を学び、実現象を理解する

## 3年次

### 研究の世界へ踏み出す

農芸化学科3年  
大野 桃代さん  
青森県立青森高等学校卒業



3年次では学科のほとんどの学生が研究室に配属され、授業と研究の2つをこなす生活をするようになります。研究室では自分の興味のある分野に詳しい先輩からたくさんの知識や実験手法を教えてもらい、日々新たな学びに刺激を受けながら研究活動に励んでいます。世界で誰もやったことのないことを探求するのは研究室に入ることです。初めて挑戦できたので、その面白みに気づいていく1年になると思います。

#### 〈 時間割の例(3年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	食品生化学	生命システム工学	応用生化学			-
	生物物理学			環境バイオテクノロジー	植物環境制御学	
2	化粧品科学	栄養生化学	発酵食品学	土壌園科学		-
	ケミカルバイオロジー	農業化学			応用微生物学	
3	研究ゼミ	-	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
			研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	
4	研究ゼミ	環境化学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	食と農の貿易ルール	土壌環境保全学	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	
5	食品冷凍冷蔵学	環境化学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
			卒業研究	卒業研究	卒業研究	

研究室REPORT

### 栄養生化学

#### 食べて健康寿命を延伸する

成人が高脂肪な食事を続けると肥満になりやすいことが知られています。一方、同じく脂肪を多く含む母乳を飲む赤ちゃんが肥満になるという話題はほとんど耳にしません。この違いはどこから生じるのでしょうか。私たちは、母乳に特徴的な脂質成分が脳に作用し、肥満や生活習慣病の発症リスクを抑える可能性を見出しました。当研究室では、母乳を含む様々な食品成分に着目し、「食と脳機能のかかわり」を分子レベルで解明する研究を進めています。



担当教員より

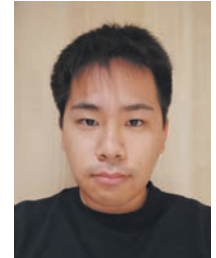
金子 賢太郎  
准教授

「研究は楽しい！」それが私たちの研究室のモットーです。興味を持ったことにワクワクしながら挑戦できる、そんな環境づくりを大切にしています。「食べることで健康をつくる」アプローチを共に追究し、新しい健康長寿戦略や食育の未来を一緒に創っていきましょう。

## 4年次

### 知識を実践へ 研究で広がる学び

農芸化学科4年  
黒崎 凱世さん  
栃木県立宇都宮高等学校卒業



4年次は、研究活動を通じてこれまでに培った知識や技術を実践へと発展させていきます。実験や議論を重ねながら課題を見出し、その解決方法を考える過程で、研究を深化させます。また、学会やシンポジウムへの参加を通じて異分野の研究者と意見を交わすことで、物事を多角的に捉える視点を養います。研究は楽しいことばかりではありませんが、成果を得たときは大きな達成感を味わえます。

#### 〈 時間割の例(4年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	発酵食品学特論	卒業研究
3	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
4	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	研究ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
6	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	

研究室REPORT

### 環境バイオテクノロジー

#### 微細藻類の力で二酸化炭素を資源に

微細藻類は、光合成を行う小さな生物です。光と二酸化炭素を利用して栄養を得ています。当研究室では、微細藻類の光合成や代謝のメカニズムを解明するとともに、光合成の力を活用した二酸化炭素の資源化に取り組んでいます。特に、コハク酸や乳酸など、バイオプラスチックや食品原料となる物質の生産研究を進めており、基礎研究の成果を社会へ実装する挑戦を続けています。



担当教員より

小山内 崇  
准教授

農芸化学科では、生物の仕組みを解き明かす基礎研究と、生物の力を活用して社会に貢献する応用研究の両方を体験できます。両方を体験するには多くの学びが必要ですが、その中で「なぜ勉強するのか」「勉強は何の役に立つのか」という疑問の答えが見えてきます。

卒業生からのメッセージ

「知恵」の醸成の場として

全国農業協同組合連合会  
 耕種総合対策部 営農・技術センター  
**沼上 真佑さん**

農芸化学科 2020年卒業、  
 農学研究科 農芸化学専攻 博士前期課程 2022年修了



農芸化学科では幅広い分野を体系的に学ぶ中で、食品や環境、生命現象について科学的視点で理解する力を養うことができました。また、豊富な実験・実習は座学で得た知識を実践する良い機会となり、3年次以降の研究活動でも大いに役立ちました。現在は農産物のおいしさ・成分に関する研究に携わり、学生時代に培った知恵を日々の仕事に活かしています。個性豊かで魅力的な先生方のもと、皆さんも実りある学生生活を送ってください。



インタビュー動画 農芸化学科卒業生の活躍の様子はこちら

TOPICS

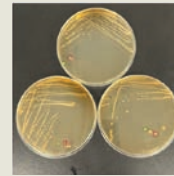
発酵食品における乳酸菌のはたらきを明らかにする

壺酢醸造において重要な役割を果たす乳酸菌

乳酸菌は、植物の表面や土壌など自然界のあらゆる場所に生息し、乳酸や抗菌物質をつくって雑菌の繁殖を抑える働きを持っています。壺酢は米を原料に、糖化、アルコール発酵、酢酸発酵という三段階の「トリプル発酵」を経てつくられる伝統的な発酵調味料です。その発酵過程では、乳酸菌の種類が少しずつ変化し、最終的には酢酸に強い *Lactobacillus acetotolerans* が優勢となります。当研究室では、各発酵段階から乳酸菌を単離し、ゲノム解析や抗菌物質の同定、機能性成分の定量などを通して、それぞれの菌の役割を明らかにしています。これまでに、壺酢由来の乳酸菌が抗菌物質を産生し、機能性物質を生成することを見出しました。乳酸菌と酢酸菌の関係を解き明かし、発酵を安定させることで、より健康に寄与する壺酢づくりに貢献したいと考えています。(山田千早准教授)



酸素がない条件で乳酸菌を培養



寒天の栄養培地上で乳酸菌が生育して細胞の塊となり目で観察できるようになっている

DATAでわかる農芸化学科

■ 在籍状況 (2025年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	61(39%)名	94(61%)名	155名
2年	54(32%)名	115(68%)名	169名
3年	41(27%)名	113(73%)名	154名
4年	51(34%)名	97(66%)名	148名
合計	207(33%)名	419(67%)名	626名

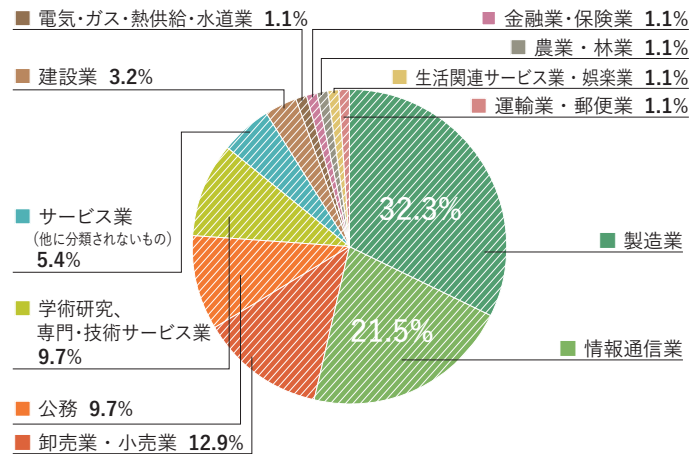
■ 研究室状況 (2025年4月1日現在)

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	13人	93.4%

■ 2024年度進路状況



■ 2024年度就職実績



■ 2024年度主な就職先 (大学院生を含む)

- ・(株)ニッポン
- ・WDB(株)エウレカ社
- ・横浜市役所
- ・味の素(株)
- ・SCSK(株)
- ・NRIシステムテクノ(株)
- ・NTTドコモソリューションズ(株)
- ・国家公務員(一般職)
- ・(株)鳥津アクセス
- ・東京特別区
- ・森永乳業(株)
- ・伊藤ハム(株)
- ・キュービー(株)
- ・(株)コーセー
- ・宝ホールディングス(株)
- ・(一財)日本食品検査
- ・ハウス食品(株)
- ・丸美屋食品工業(株)
- ・雪印種苗(株)
- ・雪印メグミルク(株)

## 農芸化学科

## 教員と研究テーマ

農芸化学科の  
ホームページは  
こちら！

## 農芸化学科

① 研究室名・担当科目 ② 研究テーマ

加藤 雅彦 教授/博士(農学)

- ① 土壌圏科学研究室  
② 都市土壌地盤汚染の修復と再利用化技術の開発、肥料等の国際的資源の土壌での有効活用技術の開発

土壌は地球環境を構成する重要な要素です。研究室では、目に見えない土壌の中を研究し、都市環境保全や食糧生産など目に見えることに貢献しています。



中島 春紫 教授/農学博士

- ① 微生物生態学研究室  
② 麹菌の細胞表面タンパク質ハイドロフォビンの機能解析と新素材への応用

麹菌というカビは働き者で食べても安全。麹菌の細胞表面で水を弾く謎のタンパク質の機能の解明と新素材開発を目指しています。



安保 充 准教授/農学博士

- ① 環境分析化学研究室  
② 植物の環境ストレス応答に関する研究

植物の環境ストレス応答を化学的に捉える分析手法を開発し、その応用利用を目指します。主に活性酸素やラジカル分析を行います。



瀬戸 義哉 准教授/博士(農学)

- ① 植物制御化学研究室  
② 低分子シグナル分子を介した植物成長制御メカニズムの解明と応用

移動できない植物が、多様な小さなシグナル分子を利用して、自身の成長を巧みにコントロールするメカニズムを解明します。



小佐見 謙一 助教/博士(理学)

- ① 植物栄養学、植物環境制御学  
② タンパク質の形や機能から植物の栄養吸収やストレス応答制御機構を明らかにする

植物生理学や構造生物学の視点から植物の栄養応答やストレス応答を明らかにし、低環境負荷な作物生産への貢献を目指します。



荒谷 博 教授/博士(農学)

- ① 天然有機化学研究室  
② 生物の産生する多様な生理活性物質の解明

生物は生合成した多様な化合物を周辺へ放出し、他生物へ様々な影響を与えています。これらの物質の解明は「宝探し」に似ています。



久城 哲夫 教授/博士(薬学)

- ① ケミカルバイオロジー研究室  
② 植物の生理活性物質の生合成、およびアミノシルtRNA合成酵素に関する研究

植物や微生物がつくり出す有用成分の生合成と、遺伝暗号の成立に不可欠なアミノシルtRNA合成酵素の新規機能の探索研究を行っています。



中村 卓 教授/農学博士

- ① 食品工学研究室  
② 食品構造の制御によるおいしさ(食感・風味)デザイン

タンパク質・多糖類・油脂の食品構造の制御によるおいしさ(食感と風味)のデザインと効率的食品加工を目指します。



小山内 崇 准教授/博士(農学)

- ① 環境バイオテクノロジー研究室  
② ラン藻などの光合成を行う微細藻類を用いた代謝工学と二酸化炭素からのものづくりの研究

ラン藻などの藻類を用いて、光と二酸化炭素からプラスチック原料や水素などの有用物質および再生可能エネルギーを効果的につくる方法の開発を行っています。



田畑 亮 准教授/博士(農学)

- ① 植物環境制御学研究室  
② 植物ペプチド分子による栄養吸収およびストレス応答制御機構の解明

植物ペプチド分子の細胞間コミュニケーションにおける役割を解明し、植物の生存戦略を理解するとともに、ペプチドを利用したストレス応答制御を目指します。



小林 一幾 助教/博士(理学)

- ① ゲノム微生物学  
② 微生物の環境ストレス応答機構の解明

生物は常に環境変化に曝されており、適応するために複雑な制御ネットワークを備えています。その仕組みを明らかにすることで細胞制御の理解・応用を目指しています。



石丸 喜朗 教授/博士(農学)

- ① 食品機能化学研究室  
② 様々な脊椎動物における味覚受容・伝達機構の分子基盤、消化管刷毛細胞を起点とした免疫・エネルギー代謝制御機構の解明

味蕾や消化管の細胞が食品などを感知する仕組みを明らかにして、健康に良い食品成分を特定することを目指しています。



島田 友裕 教授/博士(工学)

- ① ゲノム微生物学研究室  
② ゲノム発現制御から細胞システムを理解する

生命の情報源はゲノムです。そのゲノム情報を利用する仕組みを分子レベルで解明することから、細胞システムの全体像の理解・応用を目指しています。



前田 理久 教授/博士(農学)

- ① 微生物遺伝学研究室  
② バクテリアにおけるゲノムの進化、環境適応および増殖速度最適化の分子機構、環境にやさしい技術開発

微生物はすばらしいパワーを持っています。そのパワーのルーツ、仕組みを研究し、環境にやさしい技術の開発に取り組んでいます。



金子 賢太朗 准教授/博士(農学)

- ① 栄養生化学研究室  
② 食シグナルと脳機能のコミュニケーションを研究する

脳の食欲中枢である視床下部と食成分の相互作用に関する研究を行い、食の持つ健康機能について明らかにすることを目指しています。



山田 千早 准教授/博士(農学)

- ① 発酵食品学研究室  
② 発酵食品に含まれる腸内細菌制御因子の探索、オリゴ糖の酵素合成

発酵食品を作る微生物や腸内細菌がどのような機能性成分を作るのかでヒトの健康に役立っているのかを明らかにすることを目指して研究を行っています。



森本 洋武 助教/博士(バイオサイエンス)

- ① 生殖生理学・栄養学  
② 不妊症の身体的要因の改善を目指した脂溶性ビタミンの研究

不妊症患者の着床環境改善を目指して、生殖生理学と栄養学を結びつけ、脂溶性ビタミンの研究を行っています。



長田 恭一 教授/博士(農学)

- ① 食品安全健康科学研究室  
② 脂質代謝を攪乱する食品成分、機能性食品成分の安全性と保健機能、ならびに、食品中の毒性成分に関する研究

ポリフェノール等の食品成分が有する健康維持増進機能、とくに、脂質代謝調節機能について追究しています。



竹中 麻子 教授/博士(農学)

- ① 食品生化学研究室  
② 食品中のタンパク質とビタミンの代謝・機能

食事から摂取する栄養素が不足すると、体や心に様々な変化が起こります。このメカニズムを研究し、栄養素の新しい機能を探索しています。



村上 周一郎 教授/博士(農学)

- ① 微生物化学研究室  
② 新規機能を有する微生物の分離・同定、およびその有効利用

当研究室では、自然環境から微生物界のスーパーマンを見つけ出し、食品や環境など様々な分野で利用することを目的し、研究を進めています。



鈴木 博実 准教授/理学博士

- ① 生物物理学研究室  
② 分子進化、転写発現制御機構、蛋白質の機能と構造

コンピュータを利用して配列(アミノ酸配列・ゲノム配列)と構造・機能との関連性の解明という暗号文解読に挑戦しています。



大谷 真彦 助教/博士(農学)

- ① 有機化学・有機分析実験  
② 種子休眠・発芽を調節する環境応答メカニズムの研究

種子が環境を感知して発芽時期を決める仕組みを分子レベルで解明し、その制御に有効な新規化合物を探索しています。



※ 研究者は退職等により変更となる場合があります。 ※ 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

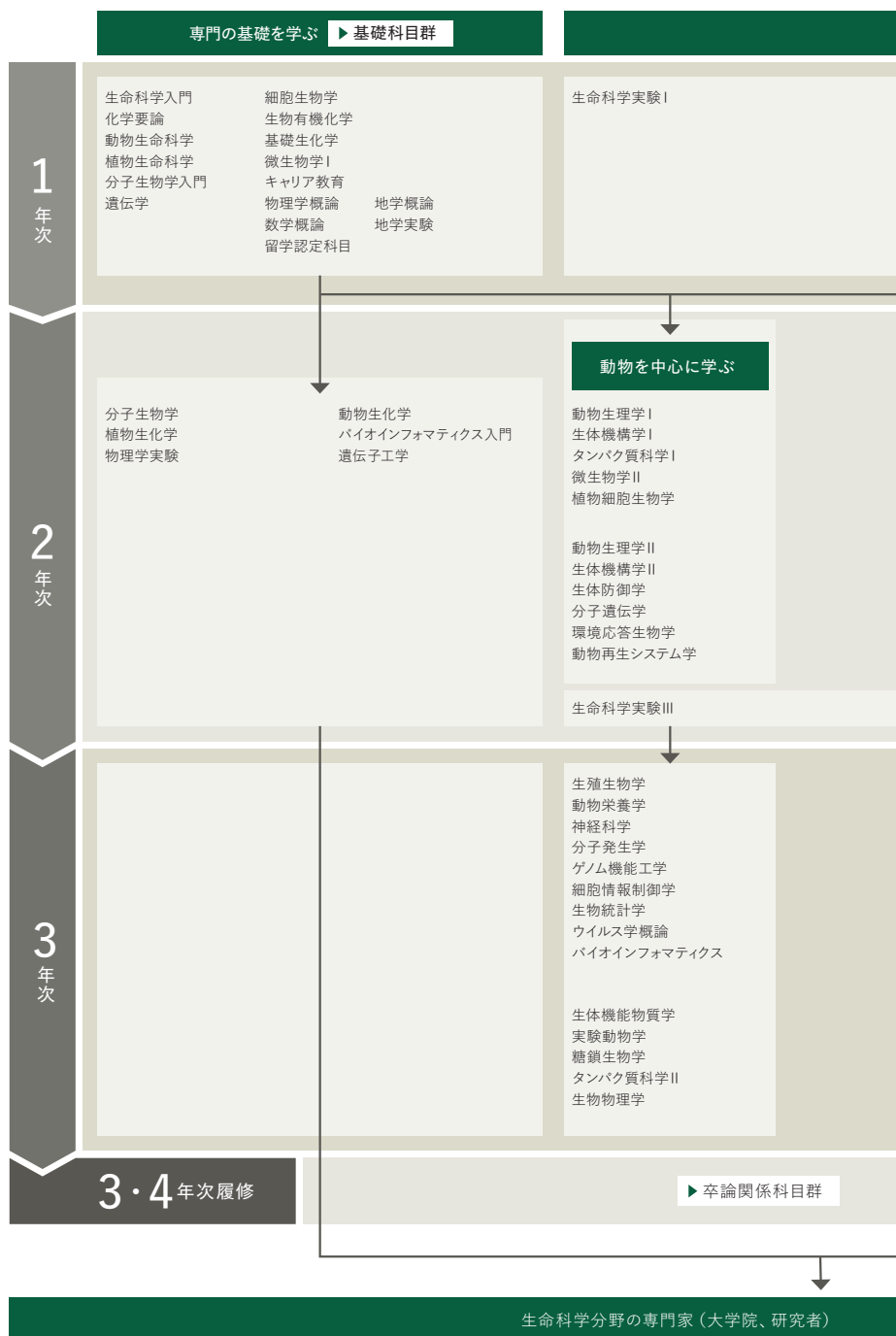
# 生命科学科

○ 生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

## 学科の概要

生命科学科では、動物や植物、微生物の生命活動を分子レベルから理解することを目指し、得られた知見を基盤として、これらを人類が直面している健康や食糧、環境問題などの解決に活用することを目指しています。本学科は、教員の専門分野も農学・理学・医学など多様であり、基礎から応用まで幅広い研究が行われ、学生の皆さんの多様な興味に応える環境が整えられています。本学科では、生命科学の分野で専門家として活躍する人材や、生命科学の素養と同時に広い視野と総合的な判断力を持った人材の育成を進めています。生命の謎に好奇心を持ち、生物の持つ能力を人類のために役立てたいと考える、意欲的な学生を歓迎します。

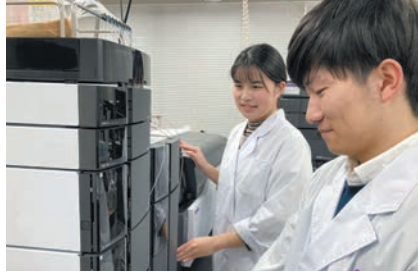
## 学科主要科目



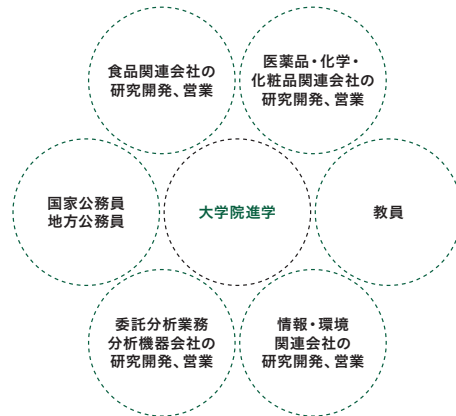
## Q カリキュラム解説

### 生命の仕組みを分子レベルで学ぶ

1年次は基礎科目群を中心に生命科学の基礎を学び、2・3年次は専攻科目群を中心により深く専門を学ぶために、基礎から専門分野までの体系的なカリキュラムを組んでいます。また、3年次からは各自が興味を持った研究室に所属して卒業研究に取り組みます。



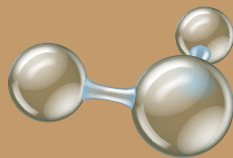
### 目指す将来イメージ



### ▶Pick up

#### 生命科学で拓く 私たちの未来

分子の視点で生命の仕組みを解き明かし、社会の様々な問題の解決を目指し、基礎から応用まで幅広い教育・研究を展開しています。



### より深く専門を学ぶ ▶ 専攻科目群

#### 生命科学実験II

#### 植物を中心に学ぶ

植物細胞生物学  
植物環境生理学  
環境応答植物学  
タンパク質科学I  
微生物学II  
動物生理学I

植物工学  
植物機能制御学  
環境応答生物学  
分子遺伝学  
生体防御学

#### 微生物を中心に動物、 植物共通な事柄を学ぶ

微生物学II  
タンパク質科学I  
動物生理学I  
植物細胞生物学  
植物環境生理学  
環境応答植物学

分子遺伝学  
環境応答生物学  
動物生理学II  
生体防御学  
植物工学

#### 生命科学実験IV

分子発生学  
ゲノム機能工学  
細胞情報制御学  
生物統計学  
ウイルス学概論  
バイオインフォマティクス  
生殖生物学

植物分子生理学  
糖鎖生物学  
タンパク質科学II  
生体機能物質学  
微生物工学  
生物物理学

ウイルス学概論  
ゲノム機能工学  
細胞情報制御学  
分子発生学  
生物統計学  
バイオインフォマティクス  
生殖生物学

微生物工学  
糖鎖生物学  
タンパク質科学II  
生体機能物質学  
植物分子生理学  
生物物理学

文献調査・特別研究 文献調査・特別研究(卒論)

生命科学分野の基礎知識を持った公務員、企業人、教員等

※カリキュラムは変更となる場合があります。

## Student Voice

### 学生の声

生命科学科4年

有松 枝希佳さん

神奈川県私立フェリス女学院高等学校卒業



### 腸内細菌によって体を健康に

私の研究室では体にいい脂質を作る腸内細菌や、腸内細菌によって生成された脂質に着目して研究を行っています。その中でも私は腸内細菌によって生成される共役リノール酸という脂質に着目しています。アトピー性皮膚炎患者の皮膚に多い黄色ブドウ球菌は共役リノール酸で増殖の阻害を行うことができます。現在は先生や先輩と相談しながらこのメカニズムの解明に向けて実験を行っています。メカニズムが解明されることでアトピー性皮膚炎の治療に役立てることができるのではないかと考えています。思うようにいかないことも多々ありますが、新たな発見をすることができると達成感を味わうことができるため、日々実験を頑張ることができています。また、研究室活動では、実験以外にも様々なイベントがあり、先生や先輩、後輩とも仲良くなれて、とても充実した学生生活を送ることができています。

## Message

### 教員からのメッセージ

動物栄養学研究室

浅沼 成人教授



### 研究に情熱を注ぎ、 未来のフロンティアを切り開け

2025年のノーベル医学・生理学賞では、免疫反応を抑制する役割を持つ"制御性T細胞"の発見という生命科学の研究が受賞されました。過去にも"オートファジー"の発見や"mRNAワクチン"の開発などの生命科学の研究が受賞されています。これらは、研究者達の尽きることのない好奇心と、失敗しても諦めずに前に進む心強さで、成し遂げられました。研究を通して身に付けた経験と知識は、先の読めない(VUCA; プーカの)時代を切り開くチカラになるでしょう。失敗を恐れず、情熱を追求することは、"前へ"という言葉で表せ、明治大学の特色の一つです。明治大学で生命科学の探求心を育み、人類の進展に貢献する研究をしてみませんか。

## ▶ 生命科学科の4年間の学び

1 年次

2 年次

### 生命科学の第一歩を

生命科学科1年  
永田 瑛次朗さん  
大阪府私立大阪星光学院高等学校卒業



1年次は、生物学の入門科目と一般教養科目を履修します。入門科目は高校の学習内容を一步深めたものですが、依然として基礎的な内容が中心となります。しかし、講義の端々には最先端の研究の片鱗が伺えます。特に「生命科学入門」では、本学で実際に行われている研究について、担当教授から直接紹介を受ける機会があります。こうした経験を通じて自らの進路を見定められる、実りある一年となります。

#### 〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	ICTベースック	科学英語	-	植物生命科学	中国語Ia	-
		民俗学		ことばと分化B	中国語Ib	
2	動物生命科学	中国語IIa	-	アニマルサイエンス入門	英語Ia	-
	細胞生物学	中国語IIb		生化学I	英語IIb	
3	生命科学実験I	スポーツ実習I	-	微生物学I	生命科学実験I	-
	生命科学実験II	スポーツ実習II		生物有機化学	生命科学実験II	
4	生命科学実験I	分子生物学入門	日本の歴史	-	生命科学実験I	-
	生命科学実験II	健康科学			生命科学実験II	
5	-	-	数学概論	-	-	-

授業紹介

### 動物生命科学

#### 動物の生命現象を分子の言葉で

動物はさまざまな形態を持ち、多数の細胞種から構成されるが、その起源は受精卵という一つの細胞にあります。動物生命科学の講義では動物の形態や発生、細胞の分化や細胞間の相互作用を題材とし、動物全般について理解を深めることを目的としています。さらに、生命現象をDNAやタンパク質などの分子レベルの現象として捉えること、生命科学が生きて変化し続ける学問であることを実感してもらえるよう、今ある生命科学の知識の背景にあるそれぞれの時代の研究の積み重ねや、最新の研究成果を紹介しています。(乾雅史教授)



### 広がる学びと 未来への準備

生命科学科2年  
田邊 咲妃さん  
新潟県立高田高等学校卒業



2年次は、1年次よりも自由に授業を選択でき、より専門的な内容を学びます。難しい内容も増えますが、新しい発見が多く、自分の興味のある分野を深く学ぶ楽しさを実感できます。また、秋学期には3年次に所属する研究室を選ぶことになるため、進路を考える大切な時期でもあります。興味のある研究室を訪問したり、図書館で参考書を読んだりして、自分が追究したい分野を探していきます。

#### 〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	分子生物学		英語IIa	英語コミュニケーション	生体機構学I	-
	授業デザイン論(理科)A	分子遺伝学	英語IIb	生徒・進路指導論	特別活動論	
2	生化学II(動物代謝)	環境応答植物学	微生物学II	植物環境生理学	植物細胞生物学	-
	運動学	生体防御学	Global Competence C		生体機構学II	
3	タンパク質科学I	生命科学実験III	生命科学実験III	教育相談の理論と方法	物理学実験	-
	動物再生システム学	生命科学実験IV	生命科学実験IV	授業デザイン論(理科)B	教育課程論	
4		生命科学実験III	生命科学実験III	教育の方法と技術(ICTの活用含む)	物理学実験	-
	生殖生物学	生命科学実験IV	生命科学実験IV		環境応答生物学	
5	-	-	動物生理学I	-	-	-
			動物生理学II	生物生産学初歩概説		

授業紹介

### 植物環境生理学

#### 植物の巧みな環境応答・生存戦略

植物は厳しい環境に耐えるしきみを持つだけでなく、環境の情報を成長・分化の合図として利用しています。季節に応じた発芽や開花は、温度や日長を感じなければ実現しません。倒れた植物が重力の変化を感じなければ、他の植物の陰になって枯れてしまうでしょう。では、神経も脳も持たない植物がどのようにして環境を感じ取り、植物ホルモンや遺伝子の働きを制御し、成長しているのでしょうか？講義では、環境応答のしきみを組織・細胞・分子レベルで学び、未解明の謎についても考えます。また、炭素循環の要となる植物の多彩な能力・機能を、これからの環境保全と作物生産にどう活かせるかを考えます。(川上直人教授)



## 3年次

### 興味を深めて 追及していく

生命科学科3年  
増戸 桂太さん

東京都私立明治大学付属明治高等学校卒業



3年次からは、1・2年次に学習したことを土台として、より専門性に富んだ内容について学びます。授業の選択肢が増えることから、関心を持つ分野についてより識見を磨くことができます。また、3年次からは研究室に所属します。自身の研究テーマについて勉強しつつ、先生や先輩方からの助言を参考に、同級生と日々研鑽を重ねる充実した毎日を送ることができます。

#### 〈 時間割の例(3年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

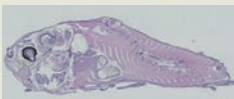
	月	火	水	木	金	土
1	動物栄養学I	測量学I	ウイルス学概論	卒業研究	卒業研究	-
	動物栄養学II	遺伝子工学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
2	卒業研究	経済学	発酵食品学	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
3	分子発生物学	生体制御学	卒業研究	ゲノム機能工学	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
4	発生工学	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
5	-	-	数学概論	-	ゼミナール	-
	-	-	-	-	ゼミナール	-

研究室REPORT

### 生体制御学研究室

#### 体内でおこる受精の仕組み

本研究室では、精液タンパク質が体内受精に不可欠と考え、そのメカニズム解明を目指しています。主な材料はマウスと魚(コリドラス)です。一般に魚は体外受精しますが、コリドラスはメスが精子を飲み込んだ後に受精する特殊な方式を取ります。この繁殖にもオスの精液タンパク質が重要と推測し、現在オスの成長過程における生殖腺発達を調べています。魚の飼育は大変ですが、稚魚の増加や精巣の新構造発見など、研究生活は充実しています。



矢状面で薄切し、HE染色を行ったコリドラスの稚魚(スケール:500μm)

担当教員より

河野 菜摘子  
教授

私たち哺乳類は体内で受精・発生する生殖様式で繁殖しています。メスの体内には、一時的に他人の細胞である精子や胎児が排除されず存在できますが、これは免疫学的に不思議な現象です。研究室では、哺乳類代表としてマウスと、特殊な生殖様式をもつコリドラスを用い、体内受精のメカニズム解明を目指しています。

## 4年次

### 仲間と共に 研究に向き合う

生命科学科4年  
荒瀬 礼奈さん

愛媛県立松山西中等教育学校卒業



4年次では研究室での活動が中心となります。実験は思うような結果が出ず悩むことも多く、原因を探して何度も考え直す日々です。その中で、先生や研究室の仲間とのディスカッションから多くの刺激を受け、研究を進めていくことに楽しさを感じています。行っている実験は違っても、励まし合う仲間がいることで支えられ、充実した研究生活を送ることができています。

#### 〈 時間割の例(4年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

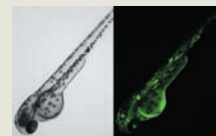
	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
3	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	-
4	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	研究室ゼミ	卒業研究	卒業研究	-
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	-

研究室REPORT

### 細胞情報制御学

#### 生体調節を司る細胞シグナル

本研究室では、動物細胞がどのように情報(シグナル)を伝え合い、体の機能を維持しているのかに注目しています。シグナル伝達の異常は、疾患の発症や発生過程の異常を引き起こすことがあります。多様な分子がシグナル伝達に関与する中で、私は特に“受容体”が鍵となる重要な分子であると考え、細胞レベルおよび個体レベルでその機能の解明を目指して研究を進めています。



担当教員より

戸村 秀明  
教授

本研究室では、「外界からの刺激を受け取る“受容体”をキーワードとして、生命現象を理解する」ことを目指し、学生とともに研究を進めています。神経、免疫、内分泌など多様な系で受容体が中心的な役割を果たしています。

卒業生からのメッセージ

将来につながる成長の場

日本ケミファ株式会社  
創薬研究所 創薬第二研究室

村上 庸人さん

生命科学科 2015年卒業  
農学研究科 生命科学専攻(博士前期課程)2017年修了  
農学研究科 生命科学専攻(博士後期課程)2020年修了



私は在学中に糖尿病合併症発症に関わる細胞膜受容体の研究に取り組んでいました。生命科学科では専門的な知識だけでなく、研究を立案・計画し、実行する過程で課題解決能力や論理的思考力を養うことができました。現在は医薬品の効果を細胞や動物で評価する基礎研究に携わっていますが、在学中の経験が今の自分の財産になっていると日々感じます。生命科学科でいろいろなことに挑戦し、充実した学生生活となることを祈っています。



インタビュー動画 生命科学科卒業生の活躍の様子はこちら

TOPICS

植物の巧みな生存戦略をミクロの視点で探る

“自らを食べる!?”ことの重要性

植物は動物と違い、自ら芽生えた場所から移動することができません。そのため、さまざまな環境ストレスにうまく対応し、乗り越えるための仕組みを備えています。さらに、光合成によって自分の力で栄養をつくり出せるのも、植物ならではの大きな特徴です。こうした植物が過酷な環境を生き抜くうえで、オートファジーという細胞内の仕組み(細胞内自己成分分解機構)が重要な役割を果たしています。私たちの最近の研究から、このオートファジーが種子の発芽や接ぎ木など、植物の発芽や再生に関わる過程でも欠かせない働きをしていることが分かってきました。また、植物のオートファジーを活性化する化合物や、逆に抑える化合物もいくつか発見しています。将来は、こうした化合物を用いて“オートファジーのスイッチ”を操作することで、葉から種子へ栄養を効率よく送り、穀物の収量や栄養価を高めたり、接ぎ木の成功率を上げたりすることも夢ではありません。植物オートファジー研究がさらに進めば、その成果を農業や園芸などの分野で活かせる日がきっと訪れるでしょう。私たちと一緒に、未知なる植物オートファジーの謎を、最先端の研究環境で解き明かしてみませんか?(吉本光希教授)

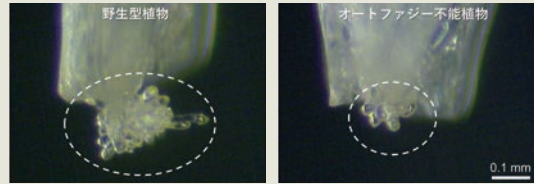


図:栄養不足下でカルス形成を支えるオートファジー

炭素源が不足した条件下で、芽と根の間にある小さな茎の部分(胚軸)を切り取った実験の結果。発芽から7日後に胚軸を切り取り、ショ糖を加えていない培地で11日間育てた。野生型と比較して、オートファジー不能植物の胚軸ではカルス(破線円内)が形成されにくくなっている。このカルス化効率の高さが接ぎ木の高効率化に重要だと考えられる。

DATAでわかる生命科学科

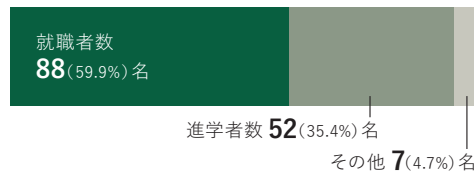
■ 在籍状況 (2025年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	81(54%)名	68(46%)名	149名
2年	89(55%)名	72(45%)名	161名
3年	71(49%)名	75(51%)名	146名
4年	86(57%)名	64(43%)名	150名
合計	327(54%)名	279(46%)名	606名

■ 研究室状況 (2025年4月1日現在)

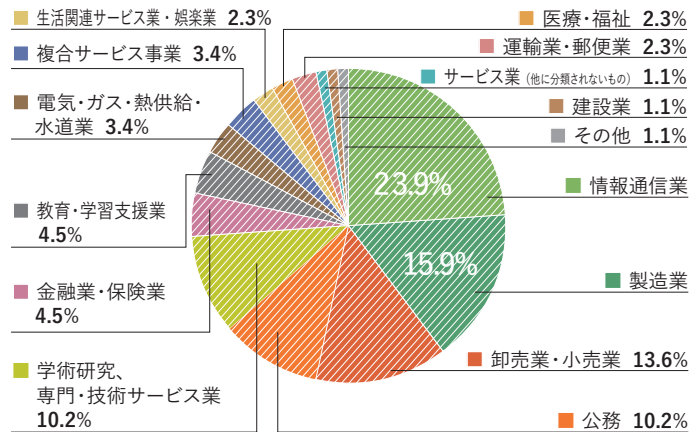
研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
17	12人	84.0%

■ 2024年度進路状況



■ 2024年度就職実績

※グラフ内のパーセンテージは四捨五入されているため、合計しても100%にならない場合があります。



■ 2024年度主な就職先 (大学院生を含む)

- ・国家公務員(一般職)
- ・クミアイ化学工業(株)
- ・(株)日清製粉グループ本社
- ・国家公務員(総合職)
- ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
- ・丸大食品(株)
- ・(株)メディサイエンスプランニング
- ・ゼリア新薬工業(株)
- ・ミヨシ油脂(株)
- ・味の素(株)
- ・全国共済農業協同組合連合会
- ・(株)ミルボン
- ・江崎グリコ(株)
- ・宝醤油(株)
- ・(株)ヤマタネ
- ・科研製薬(株)
- ・タマノイ酢(株)
- ・ユニ・チャーム(株)
- ・キリンホールディングス
- ・東京都庁
- ・キリンビジネスシステム(株)

# 生命科学科 教員と研究テーマ

生命科学科の  
ホームページは  
こちら！



**生命科学科**

① 研究室名・担当科目 ② 研究テーマ

賀来 華江 教授 / 学術博士

- ① 環境応答植物学研究室  
② 植物免疫および共生応答にかかわる受容体の認識・シグナル伝達機構に関する研究

植物の外敵識別機構およびその情報シグナル伝達系の解明を目指し、地球環境にやさしい作物の開発の基礎研究に貢献します。



戸村 秀明 教授 / 理学博士

- ① 細胞情報制御学研究室  
② Gタンパク質共役型受容体を中心とした生体機能に関する研究

動物に備わる新たな生体調節機能の解明を目指し、ホルモンを代表とする生理活性物質に対する受容体を介した情報伝達系を解析しています。



吉本 光希 教授 / 博士(食品栄養学)

- ① 環境応答生物学研究室  
② 植物における細胞内自己分解系「オートファジー」の分子機構・生理的役割の解明

植物の環境適応における細胞内自己分解系(主にオートファジー)の重要性を、多角的なアプローチによって明らかにしようとしています。



出嶋 克史 准教授 / 博士(理学)

- ① 遺伝情報システム学研究室  
② 全身性RNA干渉に関する研究

RNA干渉効果が細胞間を伝播する分子機構に関わる、新規遺伝子の機能を線虫*C. elegans*を用いて解析しています。



渡辺 麻衣 助教 / 博士(学術)

- ① 基礎生化学  
② 光合成を担う光化学系の超複合体構造の構造、機能に関する研究

様々な環境に生息する光合成生物が最適な光合成を実現するためのよう光化学系を進化、適応させているのかを研究しています。



浅沼 成人 教授 / 博士(農学)

- ① 動物栄養学研究室  
② 動物に共生する細菌の制御による食品機能の改善(美容と健康への応用)

食品成分の生理効果を高める共生細菌を見出し、ヒトや伴侶動物の美容や健康増進に役立てる研究を行っています。



川上 直人 教授 / 農学博士

- ① 植物分子生理学研究室  
② 温度による種子発芽制御機構の解明

種子の発芽や花の形成は温度に左右されます。温度を感じて成長を制御する仕組みを明らかにし、気候変動への対応を考えます。



中村 孝博 教授 / 博士(農学)

- ① 動物生理学研究室  
② 体内時計発振機構の解明および生体リズムを利用した医薬品開発・食糧生産への応用

体内時計の仕組みを解明し、生体機能の日内変動に即した最適な投薬・給餌時刻を見つけ、医療・農業への貢献を目指しています。



渡辺 寛人 教授 / 博士(農学)

- ① 生体機能物質学研究室  
② 腸管免疫機能の解析、糖尿病合併症発症機構の解析

生体内に蓄積するアミノカルボニル反応生成物の生理作用を研究し、糖尿病合併症発症機構の一端を解明することを目指しています。



長竹 貴広 准教授 / 博士(医学)

- ① 生体機構学研究室  
② 免疫・アレルギー・炎症の制御機構の解明 / 粘膜関連リンパ組織形成機構の解明

食や腸内細菌などの腸内環境因子に着目し、免疫システムの発達や制御における新たな分子機構を解明することを目指しています。



乾 雅史 教授 / 博士(理学)

- ① 動物再生システム学研究室  
② 個体の形を決める細胞間のコミュニケーション

脊椎動物の形態形成について筋骨格系をモデルとして、細胞・組織間コミュニケーションの観点から研究しています。



河野 菜摘子 教授 / 博士(理学)

- ① 生体制御学研究室  
② オスとメスの分子生物学-体内受精におけるオス精漿タンパク質の機能解析-

遺伝子改変マウスを用いて、体内でおこる受精の仕組みを調べています。鍵となる分子を見つけ出し、医療への貢献を目指しています。



浜本 敦子 教授 / 農学博士

- ① 微生物工学研究室  
② 遺伝資源としての新規微生物の探索と機能解析

海洋酵母(新たな遺伝資源)の健康や環境への活用と分裂酵母(有用モデル生物)の新規機能遺伝子の機能解明を目指しています。



高橋 直紀 准教授 / 博士(工学)

- ① 植物適応制御学研究室  
② ストレスに対する植物の適応制御機構に関する研究

植物が環境ストレスにどのように対処することで、変動する環境下での生存を可能にしているのかを明らかにしようとしています。



橋本 恵 専任講師 / 博士(理学)

- ① 動物神経免疫学研究室  
② 小脳の発生と老化による脳機能変化に関する研究

脳ではニューロンや様々な細胞が相互連携して恒常性が維持されます。その破綻による脳疾患メカニズムと治療法探索をしています。



大鐘 潤 教授 / 博士(農学)

- ① ゲノム機能工学研究室  
② エビジェネティクスを基盤とした動物ゲノム機能の有効利用

機能性RNA等を利用してエビジェネティック変化により動物のゲノム機能を人為的に調節し、有用細胞・家畜や病態モデル動物の作出を目指します。



紀藤 圭治 教授 / 博士(理学)

- ① プロテオミクス研究室  
② プロテオームの高効率解析手法の開発-酵母の老化およびストレス応答時のプロテオーム解析-オートファジーにおけるアミノ酸再利用の定量的プロテオーム解析

タンパク質の系統的解析から生命現象を探るプロテオミクス研究に、質量分析を用いた独自の解析手法を駆使して取り組んでいます。



吉田 健一 教授 / 博士(医学)

- ① 分子発生学研究室  
② 動物細胞の分化・増殖機構の解析

核酸やタンパク質といった有機分子が、動物の発生をいかに制御しているのか、細胞の分化・増殖機構に注目して研究しています。



田中 博和 准教授 / 博士(理学)

- ① 植物発生制御学研究室  
② 植物の細胞極性と発生の制御機構の研究

植物の形態形成と細胞機能を支えるしくみについて、タンパク質の配置の制御に注目して研究しています。



荒川 航平 助教 / 博士(健康科学)

- ① 健康科学  
② 変形性膝関節症の発症メカニズム・予防法に関する研究

関節軟骨の変性メカニズムと予防法について、機械的刺激(メカニカルストレス)との関連を軸に研究を行っています。



※ 研究者は退職等により変更となる場合があります。 ※ 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

# 食料環境政策学科

。 人類の生存課題を人の行動の観点から考える

## 学科の概要

21世紀に私たちが生きていくうえで、最も基礎的で重要な「食料」と「環境」をめぐる諸問題について、社会科学の側面から総合的に考究しています。生存基盤を担っている生物・生命・自然資源の仕組みを解明し、利用することは人類の持続可能性に欠かせませんが、そこに人間がどうかかわっていくべきか、を考えることは重要です。つまり「人類の生存課題を人間の行動の観点から考え、解決方法を探る」のが学びのテーマといてもいいでしょう。こうした視点を持った人材を育成するために、様々な座学だけでなく、農場実習、ファームステイ実習、フィールドワーク実習、海外農業体験など、現場を体験しながら学べる科目を数多く用意し、応用力・実践力を養うことを重視しています。

## 学科主要科目



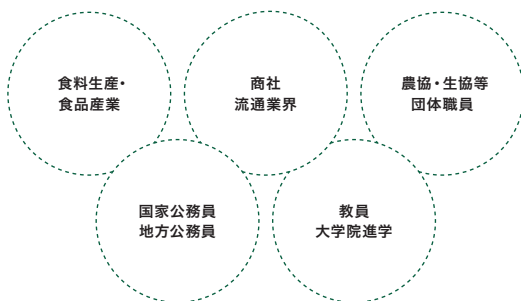
## Q カリキュラム解説

### 社会科学×自然科学×実習で育む実践的課題解決力

社会科学と自然科学の分野を横断的に学び、さらに実習科目による現場体験を通じて、総合的な知識を身につけ、具体的な課題を正しく理解し、解決する力を養います。



#### 目指す将来イメージ



視野を広げる ▶ 専攻科目II

#### 2～4年次

現代社会と食、食生活の科学、食品ブランド戦略論、食品マーケティング論、6次産業化論、食文化と農業ビジネス、食農メディア論A、食農メディア論B、農業経営の発展と地域農業、農業史、アジア農業論、比較農業論、国際食料需給論、食と農の貿易ルール、国際協力論、途上国と一次産品論、先進国の食と環境、途上国の食と環境、農業・環境法、農業・資源問題の経済学、アグリデータサイエンス、環境行動経済学、持続可能性の経済学、持続可能性の会計学、環境問題と地域社会、内発的発展論、協同組合論、森林・水産政策論、キャリア探求実習

#### 3・4年次

「食料環境政策」総合講座

留学認定科目

選択

#### 卒論関係科目群

3・4年次継続履修

※カリキュラムは変更となる場合があります。

## ▶Pick up

### 農と食、環境からみた持続可能性

経済学と社会学、会計学の視点から現代社会の諸問題を掘り起こし、解決策を見出すために幅広い教育・研究を実施しています。



## Student Voice

### 学生の声

食料環境政策学科2年

中村 夢子さん

茨城県立古河中等教育学校卒業



#### 自分も世界ももう一歩 前へ

世界をより良くすること。それが私の夢です。実現に向けて農と食の分野を選び、本学科への進学を決めました。実は高校2年生まで進学するつもりがなかった上、授業初日には事務室へ退学の相談に行ったほどです。それでも今も在籍しているのは、この環境が最高だからです。

分野の最先端で活躍する先生方や背景や関心がさまざまな仲間が集まるという大学の特性を、本学科は最大限に活かしていると感じます。普段の授業はもちろんですが、特に印象深かったのは「海外農業体験」と「ファームステイ実習」です。私はモンゴルと岐阜県中津川市に行きました。どちらも学びと刺激にあふれた有意義な経験で、振り返るたびに感謝と希望が込み上げます。

活動の原動力で溢れ、成長に貪欲でいられる食料環境政策学科の学生であることを、心から幸せに思います。ぜひ自分自身を、そして世界をもう一歩前へ、本学科から進めていきませんか。

## Message

### 教員からのメッセージ

フードシステム論研究室

大江 徹男教授



#### 少人数教育と多彩な実習

食料環境政策学科の教育は、2つの特徴を有しています。1つ目は少人数教育です。1年次から4年次まで専任教員がゼミを担当し、きめ細かい教育を実施しています。特に入学直後から始まる1年次のゼミは、高校と大学の教育の継続性を保つために貴重な機会を提供しています。

2つ目は多彩な実習です。農場実習I(1年次)、ファームステイ実習(2年次)では、実際に農作業を体験することができ、農業の大変さを実際に感じることができます。また、フィールドワーク実習(3年次)では、生産や流通の現場を見聞することで、現在の食と農の抱える問題点や可能性を深く理解することができます。このように、食料環境政策学科は、多種多様な勉強機会を提供することで自分自身が大きく成長できる学科です。

## ▶ 食料環境政策学科の4年間の学び

1 年次

2 年次

### 選択が 未来を耕し始める

食料環境政策学科1年  
三澤 京介さん  
愛知県立半田高等学校卒業



本学科は農業を経済的な視点や政治的な視点など様々な角度から学ぶことができる非常に珍しい学科です。そのため、必修科目が少なく自分の学びたい分野に特化した時間割を組めるというこの学科最大の魅力があります。また1年次には基礎ゼミや農場実習Iなど少人数のグループで課題に取り組む授業もあり、学生同士の距離が近いため大学生活を楽しみながら、大学の授業への足掛かりをつかむことができます。

#### 〈 時間割の例(1年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

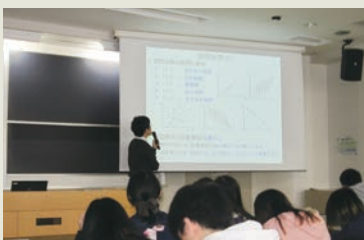
	月	火	水	木	金	土
1	食料環境政策学Ⅱ スポーツ実習Ⅱ	農学入門	フランス語Ⅱa フランス語Ⅱb	農場実習Ⅰ 農場実習Ⅰ	-	-
	フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb	スポーツ実習Ⅰ 統計学入門	経済学入門 英語農学入門	農場実習Ⅰ 農場実習Ⅰ	基礎ゼミ 心理学B	-
3	ミクロ経済学	英語Ⅰa 英語Ⅰb	英語Ⅲ 英語Ⅲ	-	アグリサイエンス論 フィールド先端農学	-
	環境学入門	運動学 社会学入門	会計学入門	-	経営学入門 食料環境政策学入門	-
5	-	-	-	-	-	-

授業紹介

### 統計学入門

#### データ分析の考え方と基礎を学ぶ

データサイエンスやビッグデータといった言葉を耳にすることが多くなりました。食料・農業・環境問題が抱える多様な問題を考察するためには、統計やアンケートなどの調査結果の分析を通じて、消費者、農業者、企業の行動を理解する必要があります。統計やアンケートの分析には、統計学の基礎的な知識が不可欠です。この授業の目標は、現代の食料・農業・環境問題を考察する力を養うとともに、フィールドワーク実習や卒業論文作成の際に、この授業で学んだ基礎的な知識を活用できることです。(藤栄剛教授)



### 世界が深まり広がる

食料環境政策学科2年  
山田 萌桃さん  
鹿児島県立大島高等学校卒業



2年次では1年次に学んだ基礎を発展させ農業・経済・環境などについて専門的に学びます。1週間農家に滞在しながら農作業に取り組む「ファームステイ実習」では、これまでの学びを深めるとともに、多くの気づきと学びに満ちた経験が得られ、さらなる学習意欲へとつながります。学生生活を楽しくつつ、自分の興味関心を広げられる充実した1年を過ごすことができます。

#### 〈 時間割の例(2年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

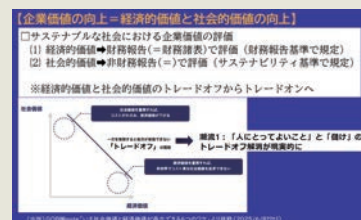
	月	火	水	木	金	土
1	科学英語	共生社会論	持続可能性の会計学	英語Ⅱa 英語Ⅱb	農業政策論	-
	地域ガバナンス論 内発的発展論	-	-	プロジェクトゼミ	農業マネジメント論	-
3	国際協力論	環境経済論 持続可能性の経済学	-	国際農業経済論 6次産業化論	政治経済学 環境問題と地域社会	-
	食料貿易論 食と農の貿易ルール	環境社会学 社会学入門	日本の歴史A	ICTベーシックⅠ 英語Ⅲ	経営学入門	-
5	-	-	-	-	-	-
集中	ファームステイ実習					

授業紹介

### 環境資源会計論

#### 持続可能な社会づくりと会計

この授業は「持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるか」をテーマにしています。受講生は当初、環境問題と会計がどうつながるのかと疑問を持ちますが、授業が終わる頃には統合報告書の読み方やESG投資の情報開示などが読み取れるようになります。この授業で学んだことを活かしてeco検定®に合格する人もいます。企業の事業活動は財務報告で評価される経済価値(シングルボトムライン)だけではなく、非財務報告で評価される社会的価値も含めたトリプルボトムラインで評価される時代になりました。豊富な事例を紹介しながら会計的思考の世界へいざないます。  
(本所靖博准教授)



## 3年次

### 知識と実体験から 学びを深める

食料環境政策学科3年  
海瀬 龍さん  
静岡県立韭山高等学校卒業



3年次から始まる研究室活動は、食料環境政策学科最大の魅力のひとつです。1・2年次の基礎知識をもとに、関心のあるテーマに沿って研究室を選ぶことができます。私が所属する研究室では、輪読をもとに議論をしながら内発的な地域づくりについて考察しています。また、フィールドワーク実習で農山村に飛び込み、地域の実情を体感することで、学んだ知識と実体験を結びつけながら学びを深めています。

#### 〈 時間割の例(3年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	-	-	環境資源会計論	-	-	-
2	地域ガバナンス論 農業・食料政策の経済学	経済学 日本語表現B	食文化と農業ビジネス 西洋史概論	-	-	-
3	食ビジネス論 持続可能性の経済学	環境経済学 英語農学II	英語農学I 英語農学II	国際農業経済論 比較農業論	-	-
4	ゼミナール ゼミナール	環境社会学	-	「食料環境政策」総合講座	-	-
5	ゼミナール ゼミナール	-	-	-	-	-
集中	フィールドワーク実習					

メディア授業：文化人類学A/ビジネスと法A/全学共通総合講座I/文化人類学B/ビジネスと法B/全学共通総合講座II

研究室REPORT

### 地域ガバナンス論

#### ワクワクする農山漁村から学ぶ

いま、農村でも都市でも地域再生への新たな挑戦が始まっています。子ども食堂をきっかけにして都市部から関係人口を集めている中山間地域、高校での環境問題に関する探究学習が地元の住民による新しいコミュニティづくりにつながった農村など、様々なところでワクワクする動きが見られます。そのような現場を足で歩き、人々の声を聞きながら、分析し、それをさらに持続化するための政策や社会の仕組みを考え、提案します。



担当教員より

小田切 徳美  
教授

現場に身を置くことで、人と人の関係、人と自然の関係などが見えてきます。そのようにしてアクセスした地域には同じ所は一つもありません。歩いて、見て、聞いて、そして感じるにより地域の可能性が発見できます。そんな研究と一緒に進めましょう。

## 4年次

### 探求の集大成

食料環境政策学科4年  
細田 恵実子さん  
茨城県私立土浦日本大学高等学校卒業



4年次には履修に余裕が生まれ、自分の時間を確保しやすくなります。卒業論文の執筆に加え、進学準備や就職活動、資格取得など、自主性を持って幅広い活動に取り組みます。卒業論文では、座学と現場実習で培った多角的な視点を活かし、自ら課題を設定し、先生からのご指導をいただきながら、主体的に研究を進められるのが特徴です。本学科ならではの学びを集大成し、次のステージへと橋渡しする、非常に充実した日々を過ごしています。

#### 〈 時間割の例(4年次) 〉

上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	ゼミナール ゼミナール	共生社会論	-	-	農業政策論	-
2	ゼミナール ゼミナール	-	-	-	農村計画学	-
3	-	スポーツ実習II	-	スポーツ実習II	英語III 英語III	-
4	-	-	-	「食料環境政策」総合講座	-	-
5	-	-	-	-	-	-

研究室REPORT

### 食ビジネス論

#### データで拓く食の未来

本研究室では、食に関する人々の行動や市場の動向を科学的に分析し、持続可能な食ビジネスの構築を目指しています。データサイエンスを活用して購買データやSNS上の発言を解析し、テキストマイニングにより消費者の考え方や好みを可視化しています。さらに、選択実験を通して人々の意思決定の仕組みを明らかにし、その成果をマーケティングや商品開発に活かす研究にも取り組んでいます。



担当教員より

中嶋 晋作  
准教授

データを読み解く力は、現代の食ビジネスでますます重要になっています。ゼミ生には3年次から、経済学やマーケティングのデータ分析に必要な統計ソフト[R]やGISソフト「QGIS」を習得してもらい、データを自在に扱う力を身につけてもらいたいと考えています。

卒業生からのメッセージ

食を軸に広がった学びと今

全国農業協同組合連合会  
畜産生産部

高原 綾乃さん

食料環境政策学科 2023年卒業



日本の「食」全体に興味を持ち入学し、農業だけでなく、それに波及する社会課題にも向き合った4年間でした。フィールドワーク実習など教室外の学びや、研究室での仮説検証を通して、興味を深く探求できたことが大きな財産です。現在は飼料穀物を扱う部署で購買などを担当しています。在学中に培った学びの積み重ねが、今の仕事に向き合う基盤となっています。

インタビュー動画 食料環境政策学科卒業生の活躍の様子はこちら



TOPICS

卒業論文作成

4年間の学びの集大成に挑む

4年間の学びの集大成となるのが卒業論文の作成です。当学科では3・4年次を通して「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に在籍し、教員の指導を受けながら各自が興味を持ったテーマを究めています。卒論のテーマは様々ですが、食料、環境、農業、地域、開発、経済といったキーワードに関するものが多くを占めます。論文作成の過程で悪戦苦闘している姿を見かけますが、自ら得た知識や考え方を文章にまとめる作業は、「何かを伝える、表現するため」のトレーニングにもなります。現地に出向いて行ったヒアリングをもとにしたり、様々な場所で集めたアンケートをもとに物事を論じたりするなど、「足で稼いだ」卒業論文が多いのも、食料環境政策学科の特色といえます。

(橋口卓也教授)



DATAでわかる食料環境政策学科

■ 在籍状況 (2025年4月1日現在)

	男子	女子	合計
1年	92(56%)名	73(44%)名	165名
2年	85(51%)名	83(49%)名	168名
3年	83(56%)名	66(44%)名	149名
4年	94(55%)名	76(45%)名	170名
合計	354(54%)名	298(46%)名	652名

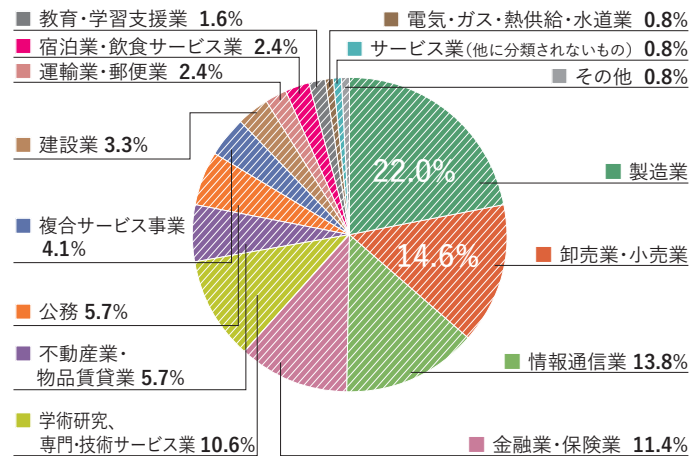
■ 研究室状況 (2025年4月1日現在)

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
14	17人	86.5%

■ 2024年度進路状況



■ 2024年度就職実績



■ 2024年度主な就職先 (大学院生を含む)

- 全国農業協同組合連合会
- 伊藤ハム米久ホールディングス(株)
- 全国共済農業(協組連) 全国本部
- (株)日本政策金融公庫
- 小田原市役所
- 高梨乳業(株)
- 国家公務員(一般職)
- キリンホールディングス
- ニセコ町役場
- CTCテクノロジー(株)
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- (独)農畜産業振興機構
- (株)全農ビジネスサポート
- 狛江市役所
- 農林中央金庫
- 国立研究開発法人農業、食品産業技術総合研究機構
- サンヨー食品(株)
- (株)日立製作所
- 三菱食品(株)
- 全国共済農業協同組合連合会

# 食料環境政策学科 教員と研究テーマ

食料環境政策学科  
のホームページは  
こちら！



## 食料環境 政策学科

① 研究室名・担当科目 ② 研究テーマ

小田切 徳美 教授／博士(農学)

- ① 地域がバナンス論研究室  
② 先進国における農業・農村政策の政治経済学的分析

いま、農村でも都市でも地域再生の新たな挑戦が始まっています。この動きをさらに持続的なものとするために何をすべきかを考えます。



藤栄 剛 教授／博士(農学)

- ① 資源経済論研究室  
② ミクロデータによる農業資源・環境問題の経済分析

環境問題など多様な社会問題の解決のためには何が必要とされているのでしょうか。農村を取りまく農業・資源・環境問題を経済学の視点から考えます。



中嶋 晋作 准教授／博士(農学)

- ① 食ビジネス論研究室  
② 食品マーケティング、農地取引のマーケットデザイン

購買データやSNS分析、選択実験を用いて、食に関する消費者行動と意思決定の仕組みを明らかにする研究を行っています。



長岡 佑治 助教／博士(農学)

- ① 教養としての食料環境政策学  
② フードシステムにおける効率的な中間構造の解明

2つの研究課題からフードシステムの中間構造を研究します。一つ目は仲介者に関する研究、二つ目は取引方法に関する研究です。



池上 彰英 教授／博士(農学)

- ① 国際開発論研究室  
② 中国の経済発展過程における農業・農村問題に関する研究

世界には貧しい国と豊かな国があり、飢餓と飽食が併存しています。途上国に関する多様な知識と視点を身につけることが、本研究室の目標です。



作山 巧 教授／博士(国際経済学)

- ① 食料貿易論研究室  
② 農産物貿易政策をはじめとする食料・農業政策に関する政治経済学的な研究

農水省、外務省での勤務や英国、フランス、イタリア、米国での駐在を活かし、「食のグローバル人材の育成」に取り組んでいます。



岡 通太郎 准教授／博士(地域研究)

- ① 共生社会論研究室  
② アジアの経済発展と資源利用問題における地域基層社会の役割と制度形成に関する実証的研究

経済と自然の両立はなぜ難しいのか。豊かさとは一体何か。世界の様々な生活の中から我々が進むべき未来について考えます。



本所 靖博 准教授／修士(商学)

- ① 環境資源会計論研究室  
② つくる人と食べる人をつなぐ大学生の産官学連携活動

環境と社会と経済の帳尻を合わせるのが会計。生産者と消費者がともに帳尻が合う持続可能なつながり方を考えよう。



市田 知子 教授／博士(農学)

- ① 環境社会学研究室  
② EUの農業・農村政策分析、環境・地域資源に関する社会的分析

当研究室では、環境に配慮した農業政策を学び、環境問題にかかわる地域住民や自治体などの関係を「社会的に」読み解いていきます。



竹本 田持 教授／博士(農学)

- ① 農業マネジメント論研究室  
② 地域資源を活用した内発的アグリビジネスと農村山村振興に関する実証的研究

農家の皆さんとの直接交流を大切にしながら、農業経営の多角化や農業・農村関連ビジネスをキーワードに農村地域活性化を考察しています。



片野 洋平 准教授／博士(法学)

- ① 食料農業社会学研究室  
② 食・農・環境の社会学・法社会学

食・農・環境領域には解決すべき課題が数多く残されています。学問的にもろく、かつ、実社会にも役立つような研究を一緒にしてみませんか。



眺 剛 専任講師／博士(農学)

- ① 国際農業経済論研究室  
② 近現代東部内モンゴルにおける土地利用方式の転換

日本、中国、モンゴル国の農耕と牧畜の関係について比較検討を行い、環境と経済が両立する持続可能な農業の姿を模索します。



大江 徹男 教授／博士(経済学)

- ① フードシステム論研究室  
② 農産物の流通とブランド化について

農産物の販売促進のために必要な流通政策について研究しています。



橋口 卓也 教授／博士(農学)

- ① 農業政策論研究室  
② 戦後の日本の農業政策の展開過程の位置づけと評価、特に条件不利地域政策の展開動向と経済的背景

主に戦後の日本の農業政策の動向を学びつつ、時々の政策が農業の現実に対して、いかなる立場をとってきたのか、その背景は何かを考察します。



佐々木 宏樹 准教授／博士(農学)

- ① 環境経済論研究室  
② 食料・農業・環境問題に関する実証分析

持続可能な食料システムの構築に向け、生産・流通・消費の各ステージにおける取り組みについて経済学の視点から追求します。



高地 紗世 助教／博士(農学)

- ① 食文化と農業ビジネス  
② 女性農業者の社会参画に関する研究、都市農業の新たな担い手に関する研究

食と農との関係性、さらにそれらを支える「人」について多角的に考え、よりよい社会のありかたを模索しましょう。



※ 研究者は退職等により変更となる場合があります。 ※ 研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

# 総合教育科目

General Education

○ すべての学問領域の基本となる知識を学ぶ

## 学科の概要

総合教育科目は専門の枠を越え、農学部を全学生を対象にした科目です。これらは各学科の専門科目と対をなし、すべての学問領域の基礎となる重要な科目でもあります。内容は人文科学、社会科学、自然科学など幅広い教養を養う「教養科目群(第一分野～第四分野)」、全学科共通の「共通専門科目群」、生きた語学力を育成する「外国語科目群」、スポーツ実習や健康と運動の科学理論を学ぶ「保健・体育科目群」の4領域に分けられています。

総合教育科目の中には、指定された学年次に履修しなければならない科目もありますが、多くは1年次から4年次までのいずれの学年次でも履修が可能です。農学に関する専門科目と、その土台となる幅広い領域の総合教育科目とが有機的に融合するところに、本学部の特長があります。

## 学科主要科目

	第一分野		第二分野
	人文科学系		社会科学系
教養科目群	宗教の哲学 科学の哲学 現代論理学の諸問題 論理的思考の技法 心理学A 心理学B 日本文学 外国文学	ことばと文化A ことばと文化B 日本語表現A 日本語表現B 文芸思潮 地域文化研究 日本の歴史A 日本の歴史B	西洋の歴史 アジアの歴史 Global Competence A Global Competence B Global Competence C 経済学 社会学 民俗学 法学 日本国憲法 教養としての食料環境政策学
共通専門科目群	生命倫理学 英語農学入門 英語農学A : Agri-Food Science 英語農学B : Biosciences	英語農学C : Environmental Management and Climate Change 英語農学D : Rural Resource Management 英語農学E : Environmental Pollution and Control	
外国語科目群	第一外国語		第二外国語
	英語 I a・b 英語 II a・b 英語 III 科学英語 英語コミュニケーション	日本語 I a・b 日本語 II a・b 日本語 III	ドイツ語 I a・b ドイツ語 II a・b ドイツ語 III フランス語 I a・b フランス語 II a・b フランス語 III
保健・体育科目群	<b>講義科目</b> 運動学                      健康科学		
総合教育ゼミナール(サブ・ゼミナール)	ゼミナール                      ゼミナール論文		

## 授業紹介 Global Competence A・B・C

グローバル化する社会に  
柔軟に対応する力をつけよう

Global Competence  
長谷川 安代 特任講師

農学部では、1・2年次を対象とした授業科目「Global Competence」を開講しています。グローバル化が進む今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、地球規模で捉える必要があります。そして、直面する様々な課題の解決のためには、国籍を問わず、他者との協働が不可欠です。本授業科目では、地球規



## Q カリキュラム解説

### 社会科学×自然科学×実習で育む実践的課題解決力

文化・社会・科学・言語・心身の涵養など幅広い教養を育み、専門科目と有機的に融合することで、総合的判断力と表現力を養います。



第三分野	第四分野	
<b>自然科学系</b> 生物学基礎 物理学基礎 化学基礎 数学基礎 教養としての生物生産学 教養としての農芸化学 教養としての生命科学	<b>ICT系</b> ICT ベーシック ICT 統計解析入門 ICT 統計解析応用 ICT データベース入門 ICT データベース応用 ICT 画像編集入門 ICT 画像編集応用 ICT 動画編集入門 ICT 動画編集応用 ICT 音楽編集入門 ICT 音楽編集応用 ICT プログラミング入門 ICT プログラミング応用 ICT Webページ作成 ICT eラーニングデザイン入門 ICT eラーニングデザイン応用 ICT プレゼンテーション	
農場実習Ⅰ・Ⅱ アグリサイエンス論 フィールド先端農学 国際農業文化理解(タイ) 国際農業文化理解(バリ)	<b>その他の外国語</b> 資格英語 資格ドイツ語 資格フランス語 資格中国語 ロシア語 スペイン語 韓国語 古典ギリシア語 ラテン語 イタリア語 アラビア語	
<b>実習科目</b> スポーツ実習Ⅰ      スポーツ実習Ⅱ      スポーツ実習Ⅲ		

※カリキュラムは変更となる場合があります。

模の課題や異文化間コミュニケーションに関する知識を得ると同時に、授業内でのディスカッションやアクティビティへの参加を通じて、分析的・批判的に物事を考えるスキル、多様性を尊重する態度やコミュニケーション能力、さらには行動力を培うことを目指します。3科目(A・B・C)からなり、各科目での学びが有機的につながるよう構成されていますが、1科目のみを履修することも可能です。まずは、教室内での価値観の多様性に目を向けること、教室内で自らの考えを発信することから始めてみましょう。教室外の世界の見え方も変わってきます。



## Student Voice

### 学生の声

食料環境政策学科3年

山瀬 楓貴さん

東京都私立昭和女子大学附属昭和高等学校卒業



### 自分たちで作る学びの場

総合教育科目の1つに「総合教育ゼミナール」という授業があります。このゼミナールの魅力は、自分の興味を起点に自由に学びを深められるところにあります。あらかじめ学ぶ内容が決まっている通常の授業に対し、私が参加しているゼミナールでは、学生の主体性が重視されています。自らテーマを設定し、資料や文献を読み解き、互いに意見を交換しながら理解を深めていきます。フィールドワーク先も自由に決めることができます。少人数で進行するため、1人ひとりの考えをじっくりと聞くことができ、多角的な視点を得られることも大きな魅力です。また、課題のレポートを通して、他のメンバーの文章表現上の工夫や発想に触れることで、自分の表現力が磨かれていくという実感を得ることもできます。総合教育ゼミナールは、自身の興味を起点に主体的に学ぶ経験を積める貴重な場であり、学びの幅が大きく広がる科目です。

## Message

### 教員からのメッセージ

日本語研究室

松下 浩幸教授



### レンガを横に置く!

「レンガを高く積むためには、すそ野を広くしなければなりません。」元サッカー日本代表監督・岡田武史氏の言葉です。今は成果が出ていないように見えても、レンガを横に積む経験は必ず将来に生きる。すそ野を広くすることが、結果的にレンガを高く積むことにつながると言っています。このことを大学教育に置き換えると、教養科目を学ぶことは、まさにレンガを横に置く作業だと言えるでしょう。一見、専門科目と関係のないように思える学問の英知が、実はそれぞれの専門領域を高い水準に押し上げてくれます。レンガを上へと高く積むだけでは、レンガの塔はすぐに倒れてしまいます。レンガを横に置くことで、専門分野の水準もまた高められます。教養科目を学ぶこと、それはレンガを横に置く作業に似ています。

# 総合教育科目 教員と研究テーマ


**総合教育科目**

① 研究室名・担当科目 ② 研究テーマ

**岩崎 泰永** 専任教授/博士(農学)

①アグリサイエンス研究室  
②栽培環境と作物の生育や収量、品質などの関係を定量的に解明し、収量や品質の向上、資源やエネルギーの利用効率の向上を目指した技術開発を行う


実際に作物を栽培する実験を通して、科学的視点から国内外の農業課題を理解し、生産性向上や環境負荷軽減の方法を探る。



**織田 哲司** 教授/博士(文学)

①英語第IV研究室  
②英語史研究ならびに人間精神と言語の関連をさぐる

人間の脳という有限と無限の交点から生まれる言語に目を向けて、人間とはどういう生き物なのかについての洞察を深めてください。



**狩野 晃一** 教授/博士(英米文学)

①英語第II研究室  
②中世英語文献学、中世ヨーロッパ文学

現代の日本から遠く離れているように思える中世ヨーロッパ、いかに異なり、どのような共通点を持つのか。言語変化や文学伝統の研究を通じて人間とは何かを探ります。



**松下 浩幸** 教授

①日本語研究室  
②日本近代文学における文化表象の研究

夏目漱石などの明治期の文学作品を中心に、活字メディアが生み出す近代の文化現象や都市表象について研究しています。



**長田 蔵人** 准教授/博士(文学)

①哲学研究室  
②カントを中心とする西洋近世の形而上学・倫理学、現代生命・医療倫理および環境倫理

近代科学の誕生と発展は、人々の世界観・価値観にどのような変化をもたらしたのでしょうか。私たちの科学的世界像の基礎を研究しています。



**加納 明彦** 准教授

①保健体育第II研究室  
②身体運動の年齢的変化をバイオメカニクスのに検討する

スポーツ選手の動作について高速度カメラによる三次元解析や地面反力の分析を行い、熟練動作のメカニズムを検討しています。



**下永 裕基** 准教授

①英語第III研究室  
②古英語時代(11世紀まで)の宗教詩研究、英語史、文献学

中世初期の「古英語」の研究です。古い文献は宝箱。読めば昔の人の歩みを追体験でき、さらに語源や文法の謎も解けていきます。



**高瀬 智子** 准教授

①フランス語・文化研究室  
②18～19世紀のフランス演劇史、美術史、音楽史。フランス語・フランス語圏比較文化

18・19世紀フランス演劇史研究の継続と同時にその視点を他のフランス語圏に転換した時が感知されるか考察を続けたいです。



**辻 朋季** 准教授/博士(文学)

①ドイツ語研究室  
②ポストコロニアリズムを取り入れた日独文化交流史の再検討

ポストコロニアリズムの理論や研究成果を取り入れて、この観点から文化交流史(特に日独交流史)の再検討を目指しています。



**樋渡 さゆり** 准教授

①英語第I研究室  
②ロマン派以降の英文学における風景と言語の研究

自然観や言語観、美意識が大きく転換した産業革命から進化論の時代にスポーツをあて、現代の私たちの文化や生活を考えます。



**McTaggart, Iain** 准教授/Ph.D.

①英語農学研究室  
②食料と農業生産に伴う温室ガスと環境汚染の研究


地球温暖化や気候変動について英語で情報を集め、食料生産・健康・環境等に与える影響や対応政策について研究し、英語で発表します。



**伊藤 善一** 専任講師/博士(農学)

①フィールド先端農学研究室  
②ムラサキの栽培と紫根菜に関する研究

施設園芸および人工光型植物工場における有用植物の栽培に関する研究を行っています。



**戸枝 美咲** 専任講師/博士(学術)

①保健体育第I研究室  
②運動の巧さを生む認知・予測・運動制御の仕組みに関する研究

運動が得意な人と苦手な人の「認知する」・「予測する」・「運動制御する」能力がどのように違うのかを研究しています。



**長谷川 安代** 特任講師/博士(農学)

①Global Competence  
②地域社会における多文化共生、農山村地域へのインバウンド観光と地域づくり

これからの時代を「自由」に生きるためには、どのような力が必要なのか。どのようにしてその力を培うことができるか。ともに考え、実践していきます。



※ 研究室は退職等により変更となる場合があります。

## 授業紹介 スポーツ実習Ⅲ

### 生涯スポーツとしての「スキー」を学ぼう

保健体育第II研究室  
加納 明彦 准教授

スポーツ実習Ⅲは、2月上旬に長野県菅高原で行われる3泊4日のスキー実習です。学科や学年の区別なく、誰もが履修できる授業になっています。ゲレンデでの実習は、効率よくスキーを習得するため、技術レベルに応じた班別講習を行っています。初心者にはスキーを安全に楽しむ技術を獲得しながら、冬の大自然を体験することで生涯スポーツとしての基礎を学びます。中・上級者は更なる技術の向上を目指し、スキーを生涯スポーツとして活用できる能力を養います。

「スキーが上手になった!」という喜びを実感することや、寝食をともにする共同生活の経験が、今後の皆さんの人生をより豊かにしてくれるものと思います。



# 生田キャンパス 農学部的主要な研究施設・設備

- 1 中央校舎
- 2 センターフォレスト
- 3 第一校舎2号館
- 4 第一校舎3号館
- 5 第一校舎4号館
- 6 第一校舎5号館
- 7 第一校舎6号館
- 8 ハイテク・リサーチ・センター
- 9 温室
- 10 北圃場
- 11 南圃場
- 12 植村直己記念碑
- 13 食堂館スクエア21
- 14 植物工場基盤技術研究センター
- 15 37号棟
- 16 東グラウンド
- 17 25号棟



## 1 中央校舎



生田キャンパスの中心に立つ中央校舎には、農学部事務室を含む各事務室、診療所、学生相談室、教室、情報処理教室、メディアホールなどがあります。

## 2 センターフォレスト



教室機能、図書館機能およびラーニングcommons(総合的な自主学習のための環境)機能の3つを複合した校舎です。現代の社会的ニーズに対応したアクティブラーニングの設備はもとより、生田キャンパスのハブとなる共用教育棟であり、授業でも使用されています。

## 3 4 5 2~6号館



2~6号館には、教室、ゼミ室、学生実験室や各教員の研究室があります。授業や研究は、基本的にこれらの建物と中央校舎を使用して行われます。

A B C D E F  
G H I J K L 詳細は ▶P.41-42へ

## 8 ハイテク・リサーチ・センター



農学部と理工学部が合同で利用する施設。内部には、数千万円クラスの研究装置から、中には1億円を超える最先端機器も設置されています。

M N O P 詳細は ▶P.42へ

## 9 温室



植物生育環境を変更・制御することで農作物の成長反応などを研究する設備として、生田キャンパスには数棟の温室が設置されています。それぞれの研究室の特色に応じた農作物の栽培研究を行っています。

## 10 11 北圃場・南圃場



土壌分析の研究や作物栽培の研究などを行っている複数の研究室が、実際に生産や収穫、調査を行うための実験場です。

## 12 植村直己記念碑



1964年に農学部を卒業し、1984年2月12日、世界初のマッキンレー冬期単独登頂に成功し、帰らぬ人となった世界的冒険家“植村直己”の記念碑です。ライブラリープラザ内に設置されており、学生たちの憩いの場となっています。

## 13 食堂館スクエア21



3階建ての学食で、コンセプトの異なる2つの食堂が入っています。ボリュームたっぷりの定食、どんぶり、ラーメン、和麺からヘルシーなローカロリーメニューまで、バラエティに富んだ品揃えで提供しています。また、1階はラウンジとなっています。

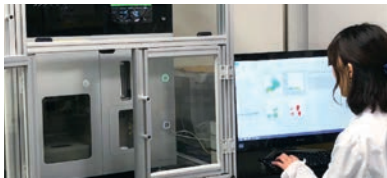
# 充実した研究施設 & 設備

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の発展は、近年目覚ましいものがあります。これらの技術を利用して、生物の仕組みを解明するための様々な機器類が開発されてきました。それに伴って機器類が身近にあるか否かで研究手法が限られてしまうこともあります。農学部では、最先端の研究に要求される高度な研究機器類を整備し、研究体制の充実を図っていま

す。これらの研究機器類を利用して、生物の生きていく仕組みについての研究を進めると、そこには無限の不思議と、無限の可能性があると気づくでしょう。そこから得られた情報を私たちの生活にどこまで還元することができるのか、研究の進展が期待されます。

## 2～6号館

### A セルソーター



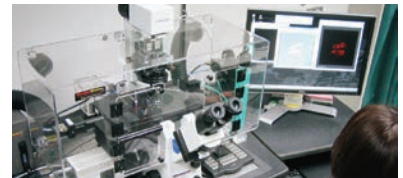
非常に高速で連続的に移動する小さい液滴の中に閉じ込められた1つ1つの細胞にレーザー光を当て、生じた屈折光や蛍光から特定の細胞の分布を調べたり、分取したりする装置。ある細胞集団の中から特定の細胞を生きたまま1つずつ分離・回収することも可能です。

### B 高速次世代シーケンサー



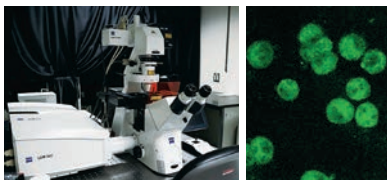
初期のゲノムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1～2日程度で決定できる能力を持ったシーケンサーです。農学部特有の配列未知の動植物や微生物のゲノム解析からエピジェネティクスなどのポストゲノム解析までを行うことが可能です。

### C セクション蛍光顕微鏡



微生物や、動物細胞の内部でおきている変化を「生きたまま」「リアルタイム」で観察することができます。細胞内の特定のタンパク質を赤や緑の蛍光で検出し、それらの画像を解析することで細胞の変化を研究しています。

### E 共焦点レーザー顕微鏡



特定のタンパク質が細胞内のどこで働くか、時間経過に伴ってどのような働きをするか、あるいは他のタンパク質との相互作用などを、組織や細胞が生きた状態で高感度・高精度に観察することができる装置です。

### F Droplet Digital PCR



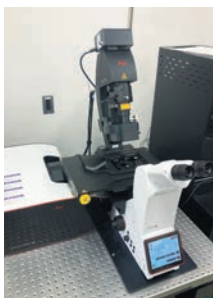
1細胞という非常に小さなスケールでの分子の検出・定量を可能にします。リアルタイムPCRなどの従来機器では検出できなかった微量の核酸を定量性良く解析できます。また、ウイルス等の病原体の検出、環境中に残存する微量DNAの検出などにも応用可能です。

### G 顕微鏡レーザーインターフェイスシステム



顕微鏡光刺激装置(レーザーインターフェイス)は微生物、昆虫、線虫、哺乳動物、植物における特定細胞の除去や光遺伝学解析に使用します。本装置は複雑な分子生物学的操作を必要とせず、あらゆる生物種に容易に適用でき、拡張性も非常に高い装置です。

### I 共焦点・ライトシート顕微鏡 (STELLARIS 8)



蛍光の寿命を画像情報として視覚化することにより、低レベルで発現する蛍光タンパク質の挙動を自家蛍光と区別して高精度に分析することができます。また、薄いシート状の励起光を用いて組織や器官における蛍光タンパク質の分布を三次元的に可視化することができます。

### J 窒素安定同位体比分析計



亜酸化窒素 (N<sub>2</sub>O)、メタン (CH<sub>4</sub>)、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) ガス濃度とそれぞれのガスに含まれる微量な窒素・炭素安定同位体比を連続的に測定できます。時々刻々と変化する環境因子(地温、土壌水分量など)に呼応して変化する微生物活性によって温室効果ガス放出・吸収が変化するため、連続的なデータを得ることでこれまで見過してきた多くの新たな現象を捉えられます。

### K 水利実験場



維持管理が容易で、環境に配慮した水路や取入堰などの水利施設の開発や改良をするために模型を製作して実験を行っています。写真は、農業用水路を使った小水力発電のための水車の実験をしているところです。

## 飲食店などへ安定的に野菜を供給できるのはなぜ? その仕組みを探ろう

「明治大学植物工場基盤技術研究センター」での研究には2つの特長があります。1つ目は「完全人工光型」すなわちランプを使った植物栽培の研究を行うことです。空きオフィスなどを活用して野菜を供給する都市型農業の形態の一つとして、植物工場は大きな可能性を秘めています。2つ目は、本学が総合大学であることを活かし、学部の枠を越えて商、経営、理工、農学部などが協力体制を組み、農商工連携研究のモデルケースとして運用していくというもの。植物工場ほど、それらが一体とならなければ成り立たない産業はありません。



### D 誘導結合プラズマ 質量分析計(ICP-MS)



高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。

### H BD FACSMelody セルソーター



抗体などを利用することによって特定の細胞を選択的に蛍光標識し、解析したい細胞のみを分取することを可能にします。また、セルソーターで分取した細胞は、代謝物解析のみならず、トランスクリプトームなど遺伝子レベルでの解析等様々な解析を行うことも可能です。

### L 植物培養室



光や温度を人工的に調節できる培養室です。遺伝子導入した細胞からの植物個体の再生や、低温・乾燥などの環境条件に対する植物の応答や遺伝子機能の解析に利用しています。

## ハイテク・リサーチ・センター

### M 液体クロマトグラフ 質量分析計(LC-MS/MS)



複合試料が高速で分離できる装置に最先端の質量分析計を結合させた機器。ペプチドなど低分子化合物の質量を素早く高感度で分析できます。

### N ガスクロマトグラフ/ 質量分析装置(GC/MS)



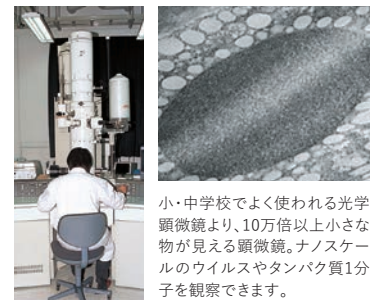
ガスクロマトグラフ(GC)と質量分析装置(MS)を結合した複合装置です。GCで分離した単一成分についてMSスペクトルを測定することにより成分の定性を行い、MSにより検出されたイオンの強度により定量を行います。有機化合物(特に低分子量成分)の定性・定量を目的とした分析に活用しています。

### O 走査型電子顕微鏡 (SEM)



物質の表面構造を観察するときに用いられる電子顕微鏡。微生物の丸ごとの形態や動植物の組織構造などの観察に利用されています。

### P 透過型電子顕微鏡 (TEM)



小・中学校でよく使われる光学顕微鏡より、10万倍以上小さな物が見える顕微鏡。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を観察できます。

## その他

### Q バイオテクノロジー 実験設備棟



植物・微生物等の遺伝子組換え実験を行うためのクリーンルーム。外気からのホコリの侵入を防ぐエアーカーテン設備、および組換え植物の花粉等が外に拡散しないための設備を有しています。

### R ライシメータ

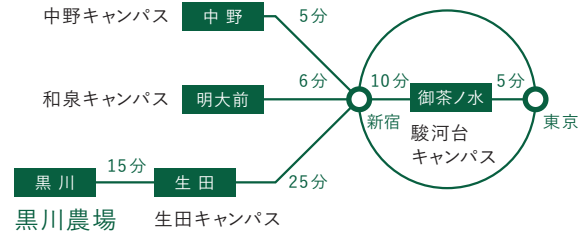


作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量(要水量)を経時的にとらえるための施設です。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。

# 明治大学黒川農場 Meiji University Kurokawa Field Science Center

## 自然と共存する、最先端農場で学ぼう

環境・自然・地域との共生をコンセプトに2012年、神奈川県川崎市麻生区に開設されたのが黒川農場です。生田キャンパスからも近く、これまで難しかった年間を通じた持続的な実習も可能となりました。黒川農場はももとの自然を最大限に活かした設計がされており、先端技術を駆使した生産効率の高い栽培システムと環境保全型システムを併せ持ちます。また、地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指しているのも黒川農場の特長です。



※上記は電車での所要時間の目安です。

PR動画 黒川農場の様子はこちらから



### 人工光・閉鎖型苗生産システム

密閉された空間で、温度管理・光照射・灌水などすべてを自動で行うシステムを備えた施設。季節や天候に左右されることなく、苗を無菌的に短期間で育て、連続的に供給可能です。



### ハウス

養液栽培でトマト、イチゴ、葉菜類などを栽培しています。養液土耕や養液栽培、環境制御やスマート農業技術の実験、研究を実施。



### 里山

黒川農場の周縁は里山になっており、植物、哺乳類、鳥類などの自然と黒川の文化を、里山を通して総合的に学ぶフィールドとして使用されます。

### 圃場

これらの圃場は学生が実習で使用するほか、社会人向け講座や生産販売用に使われています。一般的な栽培のほかには有機栽培も行われており、様々な栽培方法で作物を生産しています。

農学部に所属する9割以上の学生が、黒川農場での「農場実習」を履修しています。



苗の植えつけから育ててきたサツマイモを収穫しています。



HACCPに基づいた衛生管理下で加工食品を作ります。

## 本館

農場実習で使うほか、農場の研究室所属のゼミ学生が実験をするところです。



鉄筋コンクリートと木造のハイブリッド構造で建設されたシンボリック施設であり、教室、実験室、研究室、教員室、事務室などを有した教職員と学生の教育・研究の拠点となる建物です。

## 本館2階 学生ラウンジ



学生が実験実習の合間の休憩や、ディスカッション等に利用できるスペースです。木質構造で温かみがあり、くつろげる空間に設計されています。

## 加工実習棟



漬物、ジャムなど、学生の食品加工実習に利用されている施設。明治大学ブランドの加工食品の生産を目指しています。

## ▶ 農場実習の担当スタッフ

### 都市農業における野菜栽培技術開発

川岸 康司 特任教授／博士（農学）

都市農業の特徴を把握するとともに、都市農業における、野菜の生理・生態や品目・品種の特性を活かした栽培技術の確立を目指しています。



### 食品加工分析と発酵微生物の研究

徳田 安伸 特任教授

様々な食品の加工と分析を行います。さらにワイン酵母やテンペ菌など発酵にかかわる微生物についての研究開発をしています。



### 現場で使える技術・情報を考える

鎌田 淳 特任准教授／博士（農芸化学）

生産現場で発生する様々な問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。



### 未利用有機性廃棄物の利用技術開発に関する研究

武田 甲 特任准教授／修士（農学）

環境保全型農業と資源循環型社会の実現に向け、未利用の有機性廃棄物を肥料として活用し、その新たな利点を探る研究を進めています。



### 都市部での野菜栽培を活用した新たな価値の創造

齋藤 義弘 客員教授

都市部で、主に野菜の種まきから収穫までの一連の管理技術を普及させることにより、新たな価値の創造に寄与できることを目指します。



## 農場長からのメッセージ

### 先進的な栽培システムと環境保全型システムを併せ持つ都市型農場

元木 悟 教授

黒川農場は、環境・自然・地域との共生をコンセプトとした都市型農場であり、都心からほど近い大学付属農場として、都市近郊の農業と里山を学ぶには恵まれた環境です。主に農場実習を行う一般野菜栽培と有機栽培および自然栽培の露地圃場のほか、先進的な施設園芸が実践できるハウス群、人工光・閉鎖型苗生産システム、加工実習棟、里山などを有し、体験と実践を基本に、分析と研究を行いながら学びを深めることができます。農場実習では、農学部4学科の学生が種まきから収穫までの一連の農作業を実践的に学ぶことができ、座学で得た知識を広げるのに役立ちます。

# 国際交流(留学制度)

## 2つの留学制度と短期海外研修

明治大学の留学制度には、明治大学と留学の協定を結んでいる高等教育機関等へ学内選抜を経て派遣される「協定留学」と、自分で留学希望高等教育機関等に願書手続きをして、明治大学の許可を受けて留学する「認定留学」の2種類があります。両制度とも、留学先機関で修得した単位は所定の手続

き・審査を経ることで、本学の卒業要件単位として認定されることがあります。

また、農学部では毎年9月にタイ、バリへの約1週間の短期海外研修を実施しています(バリは隔年)。いずれも、詳細は農学部ホームページ内の「国際農業文化理解」のページを確認してください。

### [ 留学の条件 ]

	協定留学 (学部間・大学間)		認定留学	
資格	学部生	出発時2年生以上(出願時1年生以上)	学部生	出発時1年生以上
	大学院生	指導教員の許可等	大学院生	指導教員の許可等
人数	各大学につき毎年度2名程度(協定校により異なる)		制限なし	
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学先機関の授業料免除有無は、留学先機関との協定により異なる(本学の学費は納付)。</li> <li>渡航費や滞在費などは自己負担。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>すべて自己負担。</li> <li>本学と留学先大学の両方の学費を納付。</li> </ul>	
助成	学内選考のうえ留学経費を助成する制度あり。		学内選考のうえ留学先大学授業料の一部ならびに留学経費を助成する制度あり。	
外国語能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定校の定める基準に従う。</li> <li>詳細は各協定校の出願条件一覧を参照。</li> </ul>		留学先の高等教育機関等によって異なる。	

※ 詳細に関しては国際教育センター発行「海外留学の手引き」や、農学部HPを参照してください。

### [ 農学部・留学可能な協定校 ] 2026年4月現在

カセサート大学  
カンベンセン校農学部・バンケン校農学部  
(タイ王国・カンベンセン)

シーナカリンウィロート大学  
農産物革新・技術学部、経済学部  
(タイ王国・バンコク)

国立屏東科技大学  
農学部、工学部  
(台湾・屏東県)

チュラロンコン大学  
理学部  
(タイ王国・バンコク)

テキサス大学サウスウェスタン  
メディカルセンター  
(米国・テキサス)

ミシガン州立大学  
(米国・イーストラッシング)

## 農学部の長期留学制度 (学部間協定留学)

「大学間」の協定に基づく留学制度には全学部から応募できますが、農学部には農学部の学生しか応募できない独自の「学部間」協定校があります。「学部間」協定校は、農学系の学部学科を有する大学なので、語学力の向上だけでなく、日頃勉強している専門分野の学びを深めることも期待できます。以下、学部間協定校に指定されている6つの主な大学を紹介します。

### カセサート大学 カンペンセン校農学部・ バンケーン校農学部(タイ王国 カンペンセン・バンケーン)



カセサート大学は1943年に創立され、タイ国の中でもトップスクールの一つにランクされています。カセサート大学は、タイの農学分野で先導的な役割を担ってきました。留学生にも開かれた大学であり、キャンパス内には留学生寮が完備されているので、安全かつ安価な滞在が可能です。留学生の割合は全学生の1~2%となっています。

### テキサス大学サウスウェスタン メディカルセンター(米国 テキサス)



テキサス大学システム(UT system)の14の研究教育機関のうちの一つであり、特色のある医療提供や教育とともに革新的な生体医学研究を行う優れた医学教育研究機関として国内外に知られています。公立大学でありながら、医学教育・生物研究分野では全米ランキング18位に位置するなど、教育・研究に力をいれている大学です。留学中は、200以上あるLaboratoryの中から自身が希望する研究室を選択できます。

### シーナカリンウィロート大学 農産物革新・ 技術学部、経済学部(タイ王国 バンコク)



シーナカリンウィロート大学は1949年に創立された国立大学です。現在は医学部や薬学部も設置されて総合大学となっています。明治大学とは非常に深いつながりがあり、積極的に相互に学生の派遣や受け入れを行っています。経済学部など文系学部の科目やタイ語の授業についてはブラサンミットキャンパスをメインとし、農産物革新・技術学部を含む自然科学系の理系学部はナコンナーヨック県にあるオンカラックキャンパスをメインとして利用することになります。

### ミシガン州立大学 (米国 イーストランシング)



ミシガン州立大学(MSU)は、1855年に設立された米国で最初の農学大学を前身としており、現在では、18カレッジと107学科から構成される総合研究州立大学としてトップレベルの教育・研究を行っています。そのキャンパスも広大であり、キャンパス内を循環するバスも運行されています。スポーツは全米大学ビッグ10に入るほど盛んで、そのほか学生サークルが350を数えるなど、課外活動の機会も多いです。

### チュラロンコン大学 理学部 (タイ王国 バンコク)



チュラロンコン大学は18の学部により構成され、学士、修士、博士、ポストドクトラルを含むすべての学位を提供するタイにおける代表的な研究・教育機関であり、タイの最高峰の大学として位置づけられてきました。チュラロンコン大学理学部は、生物、化学、植物、微生物、生化学、食品科学、環境科学等の学科を有しており、農学部の教育研究分野と共通するものも多い学部です。キャンパスは首都バンコク市街に位置し、電車の最寄り駅が2つあり、無料バスで学内への移動が可能など、非常に利便性の高い大学です。

### 国立屏東科技大学 農学部、工学部 (台湾 屏東県)



国立屏東科技大学は台湾南部に位置し、亜熱帯・熱帯農業と環境科学関連の研究と教育が熱心に行われている国立大学です。アジア各国から留学生の受け入れを多く行っており、英語授業による学位授与を含めた国際交流にも熱心な大学です。300ヘクタールと台湾最大の面積を誇る美しいキャンパスを持つ大学で、広大な敷地内に農場、牧場、植物園、野生動物保護センターなど、様々な施設が点在しています。特に実践的農業教育・研究で貢献しているため、生産者や現場とのかかわりが強い大学です。

## 農学部の短期留学制度 (国際農業文化理解)

農学部には、タイ、バリの2つの短期留学プログラムがあります。両プログラムは、授業科目(国際農業文化理解)として履修し、単位を修得することができます。  
URL: <https://www.meiji.ac.jp/agri/international/program.html>  
(詳細はこちらからご確認ください)



## INTERVIEW

## 留学体験記



食料環境政策学科2年  
稲子 美月さん

東京都立新宿高等学校卒業

## 「伝えようとする姿勢」で、国境を越える

留学先 タイ

留学期間 2025年8月31日~2025年9月10日

プログラム名 国際農業文化理解

一度は海外留学に行ってみたくてという気持ちがあり、苦手意識のあった英語力向上と、異文化理解を深める機会にしたいと思い、参加を決めました。

印象的だったのは、協定校の学生との交流です。昼食をとりながら互いの日常生活について英語で話し、模擬国連の練習では英語で意見交換を行いました。言いたいことが言葉にできず悔しい思いもりましたが、失敗を恐れずに伝えようとする

ことで相手が耳を傾けてくれ、完璧な英語力よりも「伝えようとする姿勢」や「挑戦する勇氣」が大切と実感しました。チャレンジ精神が培われたと感じています。

将来は食品メーカーで働きたいと考えています。国内外を問わず新しい分野にも積極的に挑戦し、生産者と消費者をつなぐ架け橋になれるよう精進していきたいです。

# 大学院 農学研究科

## 研究室のドアを開ければ

農学は自然を学び、自然から学び取り、さらに人と自然を結ぶ学問・研究分野です。大学院では特定のテーマを専門的な知識と手法で深掘りし、課題の解決を目指しますが、視野を広げて考える、視点を変えて見ると、テーマの意味や意義がかえって明確になり、広がりや深化がもたらされます。明治大学大学院農学研究科は、自然科学から社会科学に至る幅広い専攻と優れた教員ス

タッフを擁し、研究室のドアを開けると分野の異なる学生や教員といつでも出会うことができます。さらに、皆さんの活動を後押しする支援システムやプログラムを用意しています。この持ち味を存分に引き出し、好奇心を大切に自由な発想を育て、自分だからこそできる新たなチャレンジを期待しています。

### ▶ 農芸化学専攻

#### 最先端技術を駆使して、様々な問題に挑む

本専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題に、物理学・化学・生物学・分子生物学・工学の立場から取り組んでいます。先端技術を駆使して、私たちが安全で快適な生活を送るために必要な食料・栄養や地球環境の問題の克服を目指します。

研究分野としては、動植物・微生物の栄養と代謝、有用生物の選抜と育成、生理活性物質の探索と生合成、生物を利用した土壌改良・環境浄化など、生物生産や資源生物に関する分野が中心となりますが、ほかに生産物を対象とする研究分野としては、新規食品素材や食品機能の開発などがあります。以上の教育・研究を通して、バイオサイエンス研究に必要な化学的・分子生物学的な知識を有し、幅広く農芸化学分野で社会貢献できる人材を養成します。

#### [教育・研究スタッフ]

教授	荒谷 博 石丸 喜朗 長田 恭一 加藤 雅彦 久城 哲夫 島田 友裕 竹中 麻子 中島 春紫 中村 卓 前田 理久 村上 周一郎
准教授	安保 充 小山内 崇 金子 賢太郎 鈴木 博実 瀬戸 義哉 田畑 亮 山田 千早

### ▶ 農学専攻

#### 人間社会の維持・発展に貢献する

本専攻は、生産植物・環境植物・農地・農村・動物が研究対象です。その方法論は、生理学・生態学的方法から動物行動学・微生物学・生物化学・分子生物学・分子遺伝学・環境学・水理学・農村計画学・土壌物理学・疫学・バイオ統計学的手法等です。それは、生物や植物の群落・動物群レベルから、個体・器官・組織・細胞・分子レベルまで含みます。研究目的を解明しようとする課題のキーワードで示せば、作物収集・発育管理・育種素材・鮮度保持・病害虫耐性・土地自然特性活用・緑化・希少種保全手法・免疫機能・代謝調節機構・有用菌遺伝子・動物行動と繁殖・動物福祉等となります。これらの最終目的は、食料の持続的生産・健康と福祉・共生と循環等、人間社会の維持と発展に貢献することです。

#### [教育・研究スタッフ]

教授	池田 敬 糸山 享 岩崎 直人 岩崎 泰永 川口 真以子 新屋 良治 半田 高 溝口 康 元木 悟
准教授	大里 修一 菅野 博貴 小島 信彦 佐々木 羊介 塩津 文隆 津田 勝利 服部 俊宏 矢崎 友嗣
専任講師	伊藤 善一 小泉敬彦

#### 院生生活REPORT

#### 農学と研究と社会と

農芸化学専攻 博士前期課程2年  
**菊込 将宏**さん  
 茨城県私立江戸川学園取手高等学校卒業



農学は「人間の役に立つ」ことが求められる学問です。私は、光合成生物シアノバクテリアの代謝制御メカニズムを研究しています。そこで問われるのは、単なる生物学的理解だけでなく、環境問題やエネルギー問題にどう貢献できるのかという視点です。農芸化学では微生物から動物、植物まで幅広い分野の研究室があります。異分野と関わることで、課題の全体像が見え、より研究が洗練されていくと感じています。

#### 院生生活REPORT

#### 病害虫の発病メカニズムに迫る

農学専攻 博士前期課程1年  
**上園 駿**さん  
 千葉県私立専修大学松戸高等学校卒業



植物寄生性線虫は世界各地で農作物や森林資源に深刻な被害をもたらす主要な農業害虫です。私たちの研究室では、これらの線虫がどのように植物に寄生し病害を引き起こすのかを解明することを目指しています。私はマツを枯らす線虫が異性を認識する際に用いる化学コミュニケーションの仕組みの解明に取り組んでいます。海外研究者との交流や学会発表、仲間との議論を通して研究が一歩ずつ前進することにやりがいを感じています。



「食料・環境・生命」の問題の本質についての深い洞察力と豊かな人間性を育み、高度な専門知識を備え、広い視野から問題解決への道を探求します。

## ▶ 農業経済学専攻

### 食料・農業・環境を考え、応える

本専攻は、食料・農業・環境にかかわる諸問題を社会科学の立場から解明し、人類の持続可能性の社会・経済条件を考究するという高邁な目的を持っています。これは、困難な時代の本専攻への社会的要請でもあります。そのため、社会科学諸学間の修得を基本として、専門的かつ総合的な観点と、フィールドに根ざしながらグローバルに考える複眼的な視点を持つことができる教育指導を行っています。大学院生自ら研究テーマを選び、充実したスタッフ陣によって、様々なアドバイスを受けることができます。スタッフと院生との距離が近いことも本専攻の特長であり、専用の研究スペースと情報機器を使用することができます。このような環境下で、研究に取り組んだ修了者は、試験研究機関、農業団体、官公庁、一般企業などで活躍しています。

#### [教育・研究スタッフ]

教授	池上 彰英 市田 知子 大江 徹男 小田切 徳美 作山 巧 竹本 田持 橋口 卓也 藤栄 剛
准教授	岡 通太郎 片野 洋平 佐々木 宏樹 中嶋 晋作 本所 靖博
専任講師	畷 剛

#### 院生生活REPORT

#### 地域に寄り添う研究

農業経済学専攻 博士前期課程2年  
戸崎 禎庸さん  
栃木県立栃木高等学校卒業



近年、地域の内発的発展の重要性が指摘されています。私は、地域に根差した食品卸売企業(産地商人)による農業参入が、その実現に寄与するのではないかと考え、当該地域における現地の声と各種データを照合し、その効果とメカニズムを実証的に解明しています。本専攻での横断的な学びを礎に、社会科学の視点から、地域農業の振興と食料供給の安定に資する知見の創出を目指し、日々研究に励んでいます。

## ▶ 生命科学専攻

### 生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

本専攻では生命科学とバイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を基盤とし、動物、植物、微生物を対象に基礎・応用にわたる研究と教育を行っています。タンパク質の構造と機能の研究、遺伝情報の発現や細胞の増殖・分化に関する研究、動物の生殖や個体発生および疾病発症の分子機構の解明や食糧生産に役立つ分子生物学的研究、生体活動でのホルモンや体内時計の役割、環境変化・病原体への応答メカニズムや免疫制御機構の解析、微生物の健康・環境への有効利用、クローン動物や遺伝子組換え動物の再生医学研究など、様々な分野の研究が各研究室で展開されています。本専攻の修了者は、食品、化学、医療、ゲノム解析、生物資源と環境の保全など、幅広い分野において活躍することが期待されています。

#### [教育・研究スタッフ]

教授	浅沼 成人 乾 雅史 大鐘 潤 賀来 華江 川上 直人 河野 菜摘子 紀藤 圭治 戸村 秀明 中村 孝博 浜本 牧子 吉田 健一 吉本 光希 渡辺 寛人
准教授	高橋 直紀 田中 博和 出嶋 克史 長竹 貴広
専任講師	橋本 恵

#### 院生生活REPORT

#### 生き物の謎に触れ、wonderを追求する

生命科学専攻 博士後期課程1年  
山崎 勇輝さん  
神奈川県立橋本高等学校卒業



動けない植物はいかにして外部環境から身を守るのか、我々の複雑な体はどのような過程を経て形成されるのか、微生物が産生する成分の産業利用は可能なのか、当たり前にも思える現象には多くの謎や発見が含まれています。私は研究活動を通して生命の謎に触れ、日々不思議だと感じながら生命の当たり前を支えるメカニズムの解明に取り組んでいます。研究活動では、物事を客観的にみる力、主体性、想像力などを培うことができます。

# 大学院生への支援制度

本学部では、大学院生を採用する助手制度、RA(リサーチアシスタント)制度、TA(ティーチングアシスタント)制度があり、学内にいながら一定の報酬を得ることができます。また、奨学金や研究支援のための学会研究発表助成なども行っています。

① 助手制度:若手研究者の養成を目的とし、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、専門分野の研究や実験・実習および演習等の教育補助業務のほか、学部の教育的行事業務を行います。

② RA制度:博士後期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部内の研究プロジェクトや特定課題研究等において研究補助業務に従事します。

③ TA制度:主に博士前期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部学生に対する学習支援や、実験・実習等の授業科目における補助業務に従事します。教育者、研究者になるためのトレーニングの機会となっています。

④ 奨学金制度:修了と同時に返還義務が生じる貸費型と、修了後に返還の必要がない給費型の2つがあります。給費奨学金には、明治大学大学院研究

奨励奨学金があり、学業成績・研究業績が特に優秀な方を対象に授業料2分の1相当額が給費されます。

⑤ 学会研究発表助成:研究成果の発表の場である各種学会発表に対し、その交通費および参加費(ともに上限あり)を年間2回まで助成し、学外への研究の成果発表を支援しています。



TAは、実験・実習授業等に参加して、担当教員をフォローする役目も果たしています。

## [ 2027 年度 大学院博士課程 入学試験日程 ]

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士前期課程	学内選考入学試験	本学部4年生	4月	5月25日～28日	7月4日	面接試験
	I期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	4月	7月21日～24日	9月17日	英語・基礎科目・専門科目・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	II期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	4月	12月1日～4日	2月1日	英語・基礎科目・専門科目・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	4月	7月21日～24日 12月1日～4日	9月17日 2月1日	書類審査・小論文・面接試験

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士後期課程	学内選考入学試験	本研究科博士前期課程2年生	4月	5月25日～28日	7月4日	面接試験
	I期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	4月	7月21日～24日	9月17日	英語・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	II期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	4月	12月1日～4日	2月1日	英語・面接試験 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション(面接試験含む)
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	4月	7月21日～24日 12月1日～4日	9月17日 2月1日	書類審査・小論文・面接試験

## [ 2024 年度 農学研究科修了生の主な就職先 ]

・(一社)日本海事検定協会	・(株)ミルボン	・アドバンテック(株)	・ヤマハ発動機(株)	・石川県庁
・(株)JERA	・(株)メディスサイエンスプランニング	・エイツヘルスケア(株)	・レバレジーズ(株)	・太平洋セメント(株)
・(株)YKペーキングカンパニー	・(株)ユニリタ	・NTTドコモソリューションズ(株)	・円谷フィールズホールディングス(株)	・東レエンジニアリング(株)
・(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル	・(株)横浜銀行	・オリエンタル酵母工業(株)	・丸大食品(株)	・東京都教育委員会
・(株)クレハ	・(株)静岡新聞社	・キュービー(株)	・丸美屋食品工業(株)	・日産化学(株)
・(株)コスモス薬品	・(株)島津アクセス	・キリンビジネスシステム(株)	・江崎グリコ(株)	・日東富士製粉(株)
・(株)さくらケーシーエス	・(株)東芝	・ゼリア新薬工業(株)	・国家公務員(総合職)	・日本パルソン(株)
・(株)セガ	・(株)日本総合研究所	・タマノイ酢(株)	・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	・日本製鉄(株)
・SpireX(株)	・(独)農畜産業振興機構	・パーソルホールディングス(株)	・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	・数島製パン(株)
・(株)テクノプロ	・EAファーマ(株)	・ハウス食品(株)	・三菱UFJ信託銀行(株)	・平和食品工業(株)
・(株)ニッポン	・ENEOS(株)	・パレクセル・インターナショナル(株)	・三菱商事ライフサイエンス(株)	・宝ホールディングス(株)
・(株)パスコ	・EPSホールディングス(株)	・プリストル・マイヤーズスクイブ(株)	・森永製菓(株)	・味の素(株)
・(株)フジタ	・QO(株)	・マイクロンメモリジャパン(株)	・森永乳業(株)	
・(株)フロム・ソフトウェア	・TOPPAN(株)	・マルハニチロ(株)	・神奈川県庁	
・(株)マーブル	・UTエიმ(株)	・ミヨシ油脂(株)	・石原産業(株)	

# 奨学金と学習支援

## 充実した明治大学の奨学金制度

学生生活を維持・充実させるためには、経済的負担が伴います。負担を軽減するために学生自身がアルバイトに力を入れると、時として学業に支障をきたすなどの影響が出てきます。そこで、明治大学では修学に必要な経費を補うために、多くの奨学金制度を設けています。奨学金は返済の必要のない給費型と、卒業後に返済

の義務が生じる貸費型(無利子・有利子)の2つに分けられます。奨学金には様々な種類があります。明治大学独自の奨学金や日本学生支援機構奨学金、国の修学支援制度や民間団体・地方公共団体などが行う奨学金があり、応募資格や条件として、学業成績、人物、家計状況などの選考基準がそれぞれ定められています。多くの奨学金は4月上旬に募集を行うので、入学後に明治大学ホームページで詳細を確認してください。

### [ 農学部で利用できる主な奨学金 (2026 年度予定) ]

奨学団体	タイプ <sup>※1</sup>	申込制 <sup>※2</sup>	奨学金名称	支給額等
明治大学	○	●	明治大学入学前予約型奨学金「お・明治奨学金」	授業料2分の1相当額：経済支援を必要とする受験生が対象(入学前の10月～11月に申請)
	○	●	明治大学給費奨学金	400,000円：経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学創立者記念課外活動奨励金	30,000円～500,000円：様々な分野で活躍している人、チャレンジしている人に給付
	○	●	明治大学創立者記念経済支援奨学金	240,000円～360,000円：経済困窮の両親とにもいない自活者や身体に障がいをもつ学生に給付
	○		明治大学学業奨励給費奨学金	授業料2分の1相当額：1～4年生が対象で入学後の学業成績優秀者に給付
	○	●	明治大学校友会奨学金「前へ!」	400,000円：明治大学校友会からの寄付金を原資として、地域性および経済状況を重視したうえで選考し、給付
	○	●	明治大学スポーツ奨励奨学金	授業料年額相当額または授業料2分の1相当額を上限として給付：体育会運動部に所属し、スポーツ活動成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会一般給付奨学金	400,000円：連合父母会からの寄付金を原資として、経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学連合父母会特別給付奨学金	事由が発生した当該年度の学費(入学金を除く)年額の2分の1相当額：家計支持者の死亡により給付
日本学生支援機構	△	●	第一種奨学金	20,000円、30,000円、40,000円、54,000円/月：自宅通学生、20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、64,000円/月：自宅外通学生
	▲	●	第二種奨学金	20,000円～120,000円/月：額は左記範囲内10,000円刻みで選択
国の修学支援制度	○	●	授業料等減免	入学金200,000円、授業料700,000円 給付額は、上限の額です。収入額等により、給付額は異なります
	○	●	給付奨学金	自宅生 月額38,300円(年額459,600円)、自宅外生 月額75,800円(年額909,600円) 給付額は、上限の額です。収入額等により、給付額は異なります
その他	○△	●	民間団体奨学金	額は奨学団体による
	○△	●	地方公共団体奨学金	額は奨学団体による

※1 ○:給付型、△:無利子貸与型、▲:有利子貸与型 ※2 ●:申請が必要な奨学金

## 大学院生が学生をサポートする「ラーニングサポートスペース」

農学部では、農学部教員から構成された学習支援委員会により、学生の学習支援に恒常的に取り組んでいます。

ラーニングサポートスペース(センターフォレスト4階)には大学院生のTA(ティーチングアシスタント)が常駐しており、授業の不明点やレポートの書き方、研究室の選び方など、学生の質問や要望に応じて相談・アドバイスをを行います。農学部自習室(第一校舎2号館1階)には、辞書や参考文献もあり、個人やグループで自由に利用することが可能です。

### [ 農学部学習支援制度 ]

1. 入学前課題	学科別入学前課題の提出(特別入試入学対象)
2. 入学前準備講座	高校レベルの英語・理科(生物・化学)の復習
3. オフィスアワー	専任教員の各研究室で実施



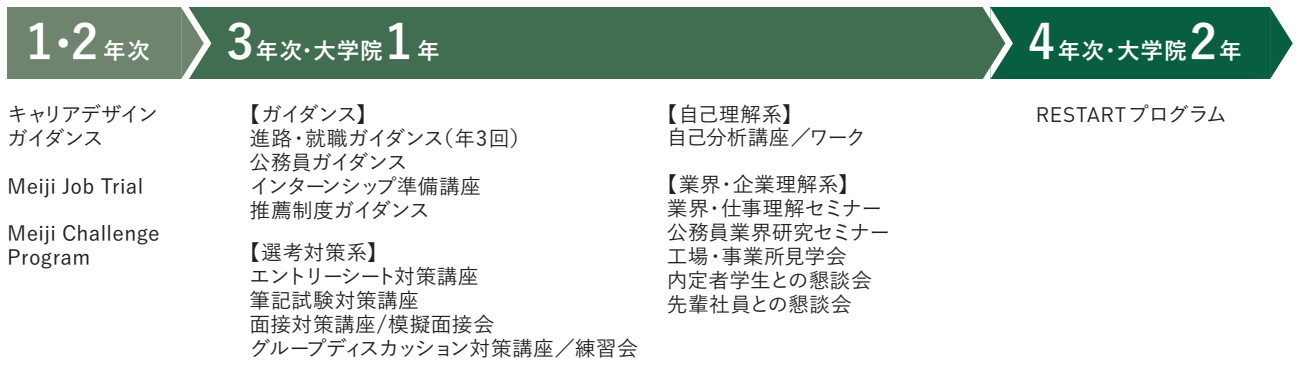
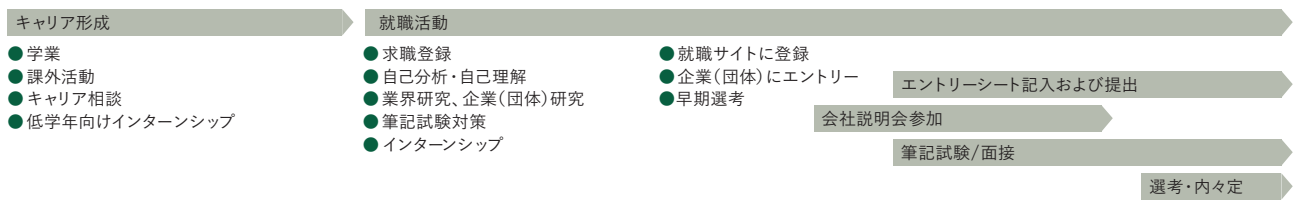
# 明治大学の就職支援・資格取得

受験生の皆さんは、大学入学後は勉学や課外活動に打ち込むだけでなく、「10年後、20年後、将来的にどんな人生を送りたいか」を考えるのも大切なことです。

明治大学では、キャリア相談や、就職ガイダンスなど、就職支援にも力を入れています。



## 4年間のキャリアデザイン



## 資格という「強み」を活かそう

明治大学には、各種資格を取得するための資格課程が設置されていて、農学部生も各課程に登録し、必要な単位を修得することで資格を取得できます。また、そのほかに農学部を卒業することで得られる資格・受験資格等もあります。

### 【課程別 明治大学に設置されている資格課程の種類】

課程名称	学科	取得できる免許状・資格
教職課程	農学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	農芸化学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	生命科学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」
	食料環境政策学科	中学校教諭一種免許状「社会」、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」「農業」
学芸員養成課程	各学科	学芸員
社会教育主事課程	各学科	社会教育主事 <sup>※1</sup>
司書課程	各学科	司書
司書教諭課程	各学科	司書教諭 <sup>※2</sup>

※1 社会教育主事の資格を得るには、修了後1年以上以上社会教育主事補の職に就く必要があります。 ※2 司書教諭の資格は、教員免許状を有する者のみに、その効力が生じます。

### 【資格別 農学部で取得できる資格・受験資格等】

資格名称	学科	資格取得方法
測量士補	農学科	卒業後、申請することで資格が取得できます <sup>※</sup>
甲種危険物取扱者		受験資格
化学分析技能士		受験資格
ペット栄養管理士		受験資格
飼料製造管理者	農芸化学科	任用資格
毒物劇物取扱責任者		任用資格
食品衛生監視員		任用資格 <sup>※</sup>
食品衛生管理者		任用資格 <sup>※</sup>

※ 所定の科目の修得が必要です。

# 入試情報

## ■ 自己推薦特別入学試験

明治大学農学部では、各学科の教育理念に強い関心と理解をもち、将来の可能性を期待できる個性や資質をもつ者を募集するため、自己推薦特別入学試験を実施します。このような条件を満たし、筆記試験では評価できない能力を有する者の積極的な応募を期待します。

学科	募集人数
農学科・農芸化学科・生命科学科・食料環境政策学科	各学科10名

### 〈 出願資格 〉

- a. 明治大学農学部志望学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。<sup>(※)</sup>  
 b. 以下の 1 2 のいずれかの条件を満たす者。

※ただし、食料環境政策学科へ出願する者は、地域農業振興特別入学試験への出願は可能とする。

### 1 公募生A (学科により異なります)

次に掲げる(ア)～(エ)のいずれかを満たし、かつ、各学科の要件①または②の条件を満たす者。<sup>(注1)</sup>

- (ア) 2026年4月1日から2027年3月31日までに高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業または卒業見込みの者。  
※明治大学付属高等学校(明治・中野・八王子・世田谷)からも出願可能。
- (イ) 2026年4月1日から2027年3月31日までに高等専門学校の第3学年を修了または修了見込みの者。
- (ウ) 2026年4月1日から2027年3月31日までに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了または修了見込みの者。
- (エ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、2026年4月1日から2027年3月31日の間かつ文部科学大臣が定める日以後に、修了または修了見込みの者。

農学科	農芸化学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 <sup>(注2)</sup> ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 <sup>(注3)</sup> で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。 <sup>(注2)</sup>	① 全体の学習成績の状況が4.3以上の者。 <sup>(注2)</sup> ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 <sup>(注3)</sup> で、全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 <sup>(注2)</sup>
生命科学科	食料環境政策学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 <sup>(注2)</sup> ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 <sup>(注3)</sup> で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。 <sup>(注2)</sup>	① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。 <sup>(注2)</sup> ② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者 <sup>(注3)</sup> で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。 <sup>(注2)</sup>

※ 学業以外の優れた活動歴では特に研究発表・懸賞論文分野の実績のある者を重視します。

## ■ 地域農業振興特別入学試験

地域農業振興に対する強い意志、斬新な発想、そして具体的プランと行動力を持ち、地域農業振興という課題に対して、本学科で学んだ知識・経験をいかし、将来は自ら地域農業振興のリーダーとして仲間を巻き込みながら取り組む能力と志を有する者を募集します。

学科	募集人員
食料環境政策学科	9名

### 〈 出願資格 〉

- 次の①～③の全てに該当する者
- ① 地域農業振興に深い関心を持ち、将来、地域の農業振興を担うリーダーとして活躍する事を志す者。  
※詳しくは、入学試験要項記載の実施目的や求める資質などを参考にしてください。  
※また、食料環境政策学科では「自己推薦特別入学試験」・「指定校推薦入学試験」も実施しています。それぞれの入学試験は趣旨や出願資格が異なりますので、特別入学試験を利用して受験を希望する者は双方の要項を熟読し、違いや内容をよく確認したうえで出願してください。
  - ② 明治大学農学部食料環境政策学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。ただし、自己推薦特別入学試験において食料環境政策学科へ出願は可能とする。
  - ③ 次に掲げる(ア)から(オ)のいずれかを満たす者。  
 (ア) 高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業した者または2027年3月31日までに卒業見込みの者。  
 (イ) 高等専門学校の第3学年を修了した者または2027年3月31日までに修了見込みの者。

## ■ その他特別入学試験

農学部では下記の特別入学試験も実施しています。詳細については各入学試験要項をご確認ください。

- スポーツ特別入学試験
- 外国人留学生入学試験

- (注1) 公募生A各学科要件①②について  
 ①の要件を満たす者で、在学中に学業以外に優れた活動歴がある者は、②として出願することもできます。入学志願票で選択してください。
- (注2) 学習成績の状況について  
 出願時点において提出可能な最新の調査書における全体の学習成績の状況です。  
※学校の制度やカリキュラムにより最終学年(3年生)の1学期または前期までの成績が記載されない場合は、2年生終了時までの成績が記載された調査書における全体の学習成績の状況とします。
- (注3) 学業以外の優れた活動歴について  
 高等学校(中等教育学校の場合は後期課程)在学中に、特筆すべき優れた能力を恒常的に発揮した者(ただし、スポーツ競技は除く)で、それを具体的に・客観的に証明する資料(証明書・作品・記事・書籍等)を提出可能な者。(参考資料として自作の資料を添付することは可能ですが、自作資料のみの提出は不可です。)

## 2 公募生B (帰国生/全学科共通)

- 次の④～⑥の条件をすべて満たしている者。
- ④ 日本国籍を有する者
  - ⑤ 外国において、学校教育における12年の課程を2026年4月1日から2027年3月31日までに修了した者または修了見込みの者。  
※日本の修業歴がある場合、最終学年を含め継続して2年以上は外国の高等学校に在籍し、かつ修了した者または修了見込みの者。  
※「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」とは、「外国の正規の学校教育における12年目の課程を修了した者」という意味となります。修了した課程が正規の学校教育であるか、何年目の課程であるかはそれぞれの国の大使館等にお問い合わせください。  
※「国際的な評価団体(WASC, ACSI, NEASC, CIS, Cognia, COBIS)の認定を受けたインターナショナルスクール等の12年の課程を2026年4月1日から2027年3月31日までに修了した者または修了見込みの者を含む。(日本での修業歴がある場合、最終学年も含め継続して2年以上は外国のインターナショナルスクール等に在籍し、かつ修了または修了見込みであること。)  
※在外教育施設で修学した場合は、「公募生A」の出願資格を参照してください。
  - ⑥ 保護者の海外在住(このことを証明できる者に限る)に同伴し、上記④～⑤の要件に該当するに至った者。

出願期間	
第一次選考	2026年9月1日(火)～9月4日(金)
第二次選考	2026年9月25日(金)～10月1日(木)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	-	● 書類選考	2026年9月25日(金)
第二次選考	2026年10月10日(土)	● 特別講義受講 ● 特別講義に関する筆記試験 ● 個別面接	2026年11月4日(水)

学科	2026年度				2025年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
農学科	35	15	15	10	30	15	14	9
農芸化学科	24	15	15	12	31	13	12	12
生命科学科	23	15	15	12	23	16	16	11
食料環境政策学科	42	13	13	8	21	11	11	8

- (ウ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了した者または2027年3月31日までに修了見込みの者。
- (エ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、文部科学大臣が定める日以後に、修了した者または2027年3月31日までに修了見込みの者。
- (オ) 高等学校卒業程度認定試験(旧大検)を合格した者または2027年3月31日までに合格見込みの者で、2027年3月31日までに18歳に達する者。

出願期間	
第一次選考	2026年9月1日(火)～9月4日(金)
第二次選考	2026年9月25日(金)～10月1日(木)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	-	● 書類選考	2026年9月25日(金)
第二次選考	2026年10月17日(土) ※受験者数によって、10月18日(日)に実施することもあります。両日予定を空けておいてください。	● 総合面接(プレゼンテーション+面接)	2026年11月4日(水)

学科	2026年度				2025年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
食料環境政策学科	28	9	9	5	21	8	8	3

※各入学試験について、内容が変更となる場合がありますので、詳細は必ず入学試験要項(ホームページ)で確認してください。  
 ※入学試験要項および出願書類は大学ホームページよりダウンロードできます。公開時期は入学試験により異なります。

■ 学部別入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	試験時間
農学科	83名	国語、数学、理科 (3教科4科目から2科目選択)	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	1科目 150点 計300点	120分
農芸化学科	80名		「数学」(数学Ⅰ～Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)		
生命科学科	90名		「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)		
		外国語(1科目選択)	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」	150点	60分
合計(3科目)				450点	
食料環境政策学科	79名	国語/地理歴史、 公民、数学、理科 (国語を必須、他の4教科 7科目中から1科目選択)	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	1科目 150点 計300点	120分
			「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」		
			「数学」(数学Ⅰ～Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)		
			「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)		
		外国語(1科目選択)	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」	150点	60分
合計(3科目)				450点	

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日
2027年1月7日(木)～1月25日(月)	2027年2月15日(月)	2027年2月22日(月)

学科	2026年度			2025年度			2024年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	1049	228	4.6	894	243	3.7	1049	266	3.9
農芸化学科	689	156	4.4	747	193	3.9	860	201	4.3
生命科学科	1234	268	4.6	1380	308	4.5	1060	257	4.1
食料環境政策学科	1383	188	7.4	952	186	5.1	1037	186	5.6

■ 全学部統一入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	時限	試験時間	
農学科	3科目： 15名 英語4技能 3科目： 5名	3科目 方式	外国語	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」から1科目選択	100点	1時限	60分
			理科	「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択	100点	3時限	60分
			● 下記の2教科2科目のうちから1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
農芸化学科	3科目： 17名 英語4技能 3科目： 5名	英語 4技能 3科目 方式	国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	100点	2時限	60分
			数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	100点	4時限	60分
			合計(3科目)			300点	
生命科学科	3科目： 10名 英語4技能 3科目： 5名	英語 4技能 3科目 方式	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	-	-
			理科	「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択	100点	3時限	60分
			● 下記の2教科2科目のうちから1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
食料環境政策学科	3科目： 5名 英語4技能 3科目： 3名	3科目 方式	外国語	「英語」(英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ)、「ドイツ語」、「フランス語」から1科目選択	100点	1時限	60分
			国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	200点 (100点 ×2)	2時限	60分
			地理歴史、公民、理科	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」、「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択		3時限	60分
数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	4時限	60分				
合計(3科目)				300点			
食料環境政策学科	英語 4技能 3科目 方式	英語 4技能 3科目 方式	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	-	-
			国語	「国語」(現代の国語、言語文化)※漢文を除く	200点 (100点 ×2)	2時限	60分
			地理歴史、公民、理科	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、政治・経済」、「物理」(物理基礎・物理)、「化学」(化学基礎・化学)、「生物」(生物基礎・生物)から1科目選択		3時限	60分
数学	「数学」(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」)	4時限	60分				
合計(3科目)				300点			

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日	試験会場
2027年1月7日(木)～1月18日(月)	2027年2月5日(金)	2027年2月12日(金)	東京(本学キャンパス)、神奈川(本学キャンパス)、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡

学科	2026年度			2025年度			2024年度		
	受験者数 <sup>※1</sup>	合格者数 <sup>※1</sup>	競争率 <sup>※1</sup>	受験者数 <sup>※1</sup>	合格者数 <sup>※1</sup>	競争率 <sup>※1</sup>	受験者数 <sup>※1</sup>	合格者数 <sup>※1</sup>	競争率 <sup>※1</sup>
農学科	447 / 178	93 / 36	4.8 / 4.9	422 / 193	97 / 32	4.4 / 6.0	464 / 140	95 / 29	4.9 / 4.8
農芸化学科	308 / 162	81 / 30	3.8 / 5.4	352 / 158	82 / 26	4.3 / 6.1	384 / 167	78 / 27	4.9 / 6.2
生命科学科	377 / 209	75 / 37	5.0 / 5.6	457 / 280	82 / 36	5.6 / 7.8	398 / 164	74 / 32	5.4 / 5.1
食料環境政策学科	390 / 241	56 / 34	7.0 / 7.1	346 / 257	82 / 39	4.2 / 6.6	241 / 173	56 / 28	4.3 / 6.2

※1 左の数字は3科目方式、右の数字は英語4技能3科目方式。

## ■ 大学入学共通テスト利用入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	備考		
農学科	12名	国語	『国語』	200点			
		外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』は、リーディング100点を150点、リスニング100点を50点にそれぞれ換算し、計200点とする。		
農芸化学科	12名	理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』から1科目	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績とする。		
● 下記の科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。							
生命科学科	15名	数学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。		
		理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第2解答科目の成績とする。		
合計(4科目)				800点			
食料環境政策学科	16名	国語	『国語』	200点			
		外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』はリーディング100点、リスニング100点とする。		
		● 下記の科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。					
		地理歴史	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。		
		公民	『公共、倫理』、『公共、政治・経済』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。		
		数学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。		
理科	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。				
合計(3科目)				600点			

出願期間(消印有効)	入学試験日(大学入学共通テスト)	合格発表日
2027年1月7日(木)～1月15日(金)	2027年1月16日(土)・1月17日(日)	2027年2月12日(金)

学科	2026年度			2025年度			2024年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	601	207	2.9	522	190	2.7	631	192	3.3
農芸化学科	457	152	3.0	526	177	3.0	526	186	2.8
生命科学科	893	283	3.2	1065	268	4.0	839	331	2.5
食料環境政策学科	696	141	4.9	458	155	3.0	442	157	2.8

※学部別入学試験・全学部統一入学試験・大学入学共通テスト利用入学試験について、詳細は一般選抜要項(明治大学ホームページにて11月上旬公開予定)をご確認ください。

## Q&A

**Q** 学部別入学試験において1時限に2科目を受験することになっていますが、時間配分はどのようにすれば良いでしょうか。

**Answer** 複数科目が合冊された試験冊子と2科目分のマークシートを配付しますので、その場で受験科目を2科目選択してもらいます。1時限は120分ありますので、選択した2科目の時間配分については各自で調節してください。(食料環境政策学科は国語が必須)

**Q** 化学や生物を受験科目として選択していないため、大学に入ってから授業についていけないか不安です。

**Answer** 農学部理系3学科の授業では化学や生物の基礎知識が必要になりますが、入学後に化学や生物が未履修の人にもサポート体制を用意しています。不安がある方でも努力次第で授業についていくことは十分可能です。

# 明治大学農学部がわかる9つのポイント

<p><b>学科・科目</b></p> <p>自然科学+社会科学+教養</p> <p>4学科それぞれの アプローチ</p>	<p><b>農場実習</b></p> <p>土に触れて感じる</p> <p>全学科で 農場実習</p>	<p><b>先端研究施設</b></p> <p>研究の幅が大きく広がる</p> <p>全国有数の 教育研究施設</p>
<p><b>農学科</b></p> <p>「いのち」を育む現場で学ぶ</p> <p>食料生産・環境の 課題解決</p>	<p><b>農芸化学科</b></p> <p>バイオテクノロジーを駆使</p> <p>生活に密着した 課題を解決</p>	<p><b>生命科学科</b></p> <p>地球上の生命現象を追究</p> <p>分子・遺伝子 レベルで解明</p>
<p><b>食料環境政策学科</b></p> <p>農学+現場体験</p> <p>社会科学で 解き明かす</p>	<p><b>国際・留学</b></p> <p>学部独自の国際交流</p> <p>世界課題を 体感する</p>	<p><b>進路</b></p> <p>幅広い業種・機関で活躍</p> <p>大学院生への 支援充実</p>

詳しくはこちらを**CHECK!**

受験生のための学部選択ガイド Step into Meiji University

<https://www.meiji.ac.jp/stepinto/agri>



LINE @meijexam

一人ひとりにぴったりの入試やイベントの情報を  
お知らせ。LINEだけのイベントもやってるよ!!



登録してくれた?

● 明治大学入試総合サイト

<https://www.meiji.ac.jp/exam/>

